

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査

— 鈴鹿市の結果概要 —



令和 7 年 1 0 月

鈴鹿市教育委員会事務局教育指導課

目次

1	調査の目的	1
2	調査対象・実施校数・実施児童生徒数（本市）	1
3	調査日・内容	1
4	調査結果の概要	
（1）	本年度の平均正答率	2
（2）	経年変化	3
5	教科に関する調査の結果	
（1）	小学校 国語	5
（2）	小学校 算数	6
（3）	小学校 理科	7
（4）	中学校 国語	8
（5）	中学校 数学	9
（6）	中学校 理科※	10
	※ 中学校理科のみ IRT 方式	
6	各教科に関する質問調査の結果	
（1）	小学校国語に関する質問調査の結果	11
（2）	小学校算数に関する質問調査の結果	12
（3）	小学校理科に関する質問調査の結果	12
（4）	中学校国語に関する質問調査の結果	13
（5）	中学校数学に関する質問調査の結果	14
（6）	中学校理科に関する質問調査の結果	15
7	鈴鹿市の重点取組等に関する児童生徒質問調査の結果	
（1）	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	18
（2）	I C T を活用した学習状況	23
（3）	家庭学習に関する取組状況	28
（4）	非認知能力等に関する状況	30

1 調査の目的

- 1 全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図ることを目的として実施される。
- 2 市内すべての学校において、児童生徒の学力や学習状況をより客観的に把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善・充実等に役立てる。

2 調査対象・実施校数・実施児童生徒数（本市）

調査対象	調査（教科） 実施校数	実施児童生徒数		
		国語	算数・数学	理科
小学6年生	30校	1,540人	1,543人	1,546人
中学3年生	10校	1,475人	1,478人	1,473人

3 調査日・内容

<調査日> 令和7年4月17日（木）

※中学校理科については4月14日から17日までに実施

<調査内容>

- ・ 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則として、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりになっている。

	国語	算数	理科
小学校	◎言葉の特徴や使い方に関する事項 2問	◎数と計算 8問	◎「エネルギー」を柱とする領域 4問
	◎情報の扱い方に関する事項 1問	◎図形 4問	◎「粒子」を柱とする領域 6問
	◎我が国の言語文化に関する事項 1問	◎測定 2問	◎「生命」を柱とする領域 4問
	◎話すこと・聞くこと 3問	◎変化と関係 3問	◎「地球」を柱とする領域 6問
	◎書くこと 3問	◎データの活用 5問	
	◎読むこと 4問		
中学校	国語	数学	※理科
	◎言葉の特徴や使い方に関する事項 2問	◎数と式 5問	◎「エネルギー」を柱とする領域
	◎情報の扱い方に関する事項 0問	◎図形 4問	◎「粒子」を柱とする領域
	◎我が国の言語文化に関する事項 0問	◎関数 3問	◎「生命」を柱とする領域
	◎話すこと・聞くこと 4問	◎データの活用 3問	◎「地球」を柱とする領域
	◎書くこと 5問		上記の領域から26問出題
	◎読むこと 3問		

※中学校理科はIRT方式で実施したため、領域ごとの問題数は非公開

- 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査結果の概要

(1) 本年度の平均正答率

表1 令和7年度 平均正答率（小6） (%)

小6	国語	算数	理科
鈴鹿市	66	57	56
三重県（公立）	66	57	56
全国（公立）	66.8	58.0	57.1

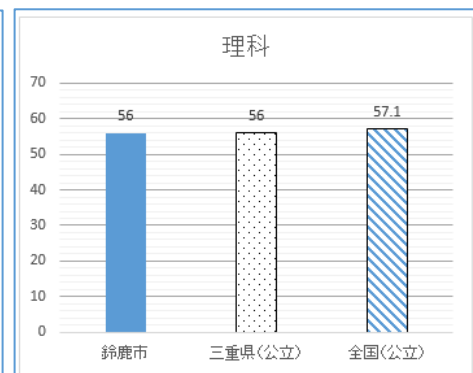
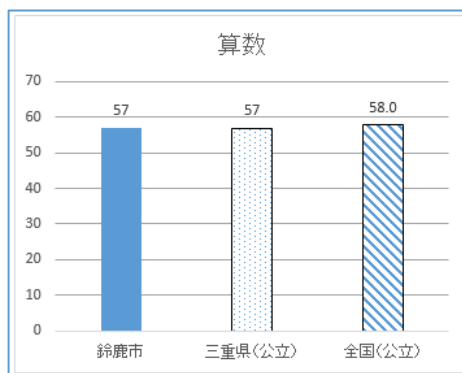
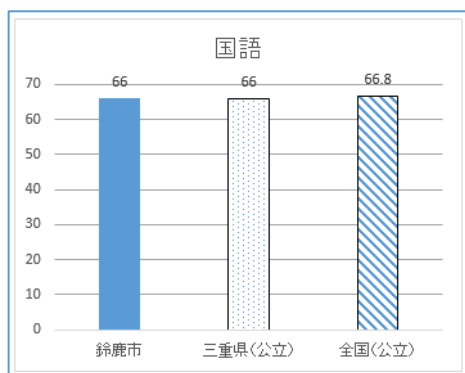
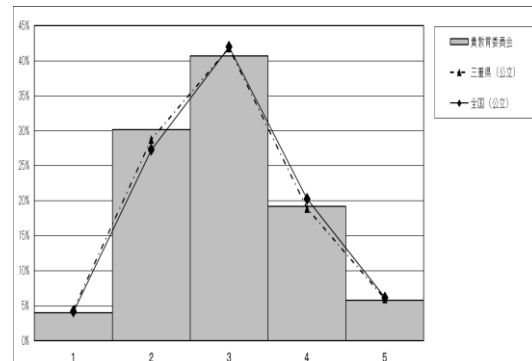
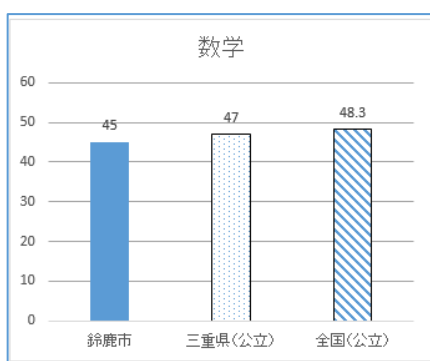
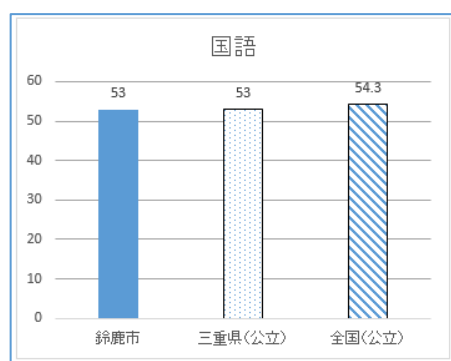


表2 令和7年度 平均正答率（中3） (%)

中3	国語	数学	※理科
鈴鹿市	53	45	49.7
三重県（公立）	53	47	49.8
全国（公立）	54.3	48.3	50.3



※中学校理科については
平均 IRT スコアで表示

(2) 経年変化

- ・小学校は、3教科ともに全国平均正答率を下回った。
- ・中学校は、国語、数学2教科ともに全国平均正答率を下回った。
- ・中学校国語については、過去5年間で、全国平均正答率との差がもっとも縮まり改善が見られた。
- ・中学校の理科は令和7年度からIRT方式で実施され、平均IRTスコアが全国スコアを下回った。

表3 過去5か年の鈴鹿市と全国平均正答率（小6）（％）

小学校	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	64	64.7	63	65.6	67	67.2	68	67.7	66	66.8
算数	70	70.2	62	63.2	62	62.5	63	63.4	57	58.0
理科	—	—	63	63.3	—	—	—	—	56	57.1

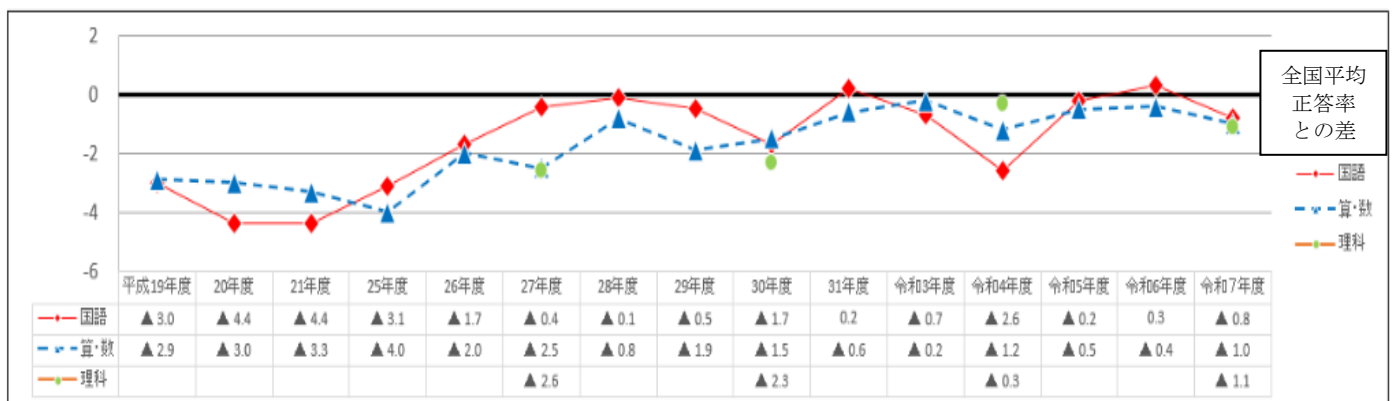


図1 鈴鹿市と全国平均正答率との差の経年変化（小6）

※平成19年度から平成30年度まではB問題の結果を反映

※平成22年度、24年度は抽出調査のため記載なし

※平成23年度は、東日本大震災の影響により実施見送り

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施見送り

表4 過去5か年の鈴鹿市と全国の平均正答率（中3）（％）

中学校	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	61	64.6	66	69.0	65	69.8	56	58.1	53	54.3
数学	56	57.2	50	51.4	48	51.0	51	52.5	45	48.3
理科	—	—	46	49.3	—	—	—	—	497	503
英語	—	—	—	—	42	45.6	—	—	—	—

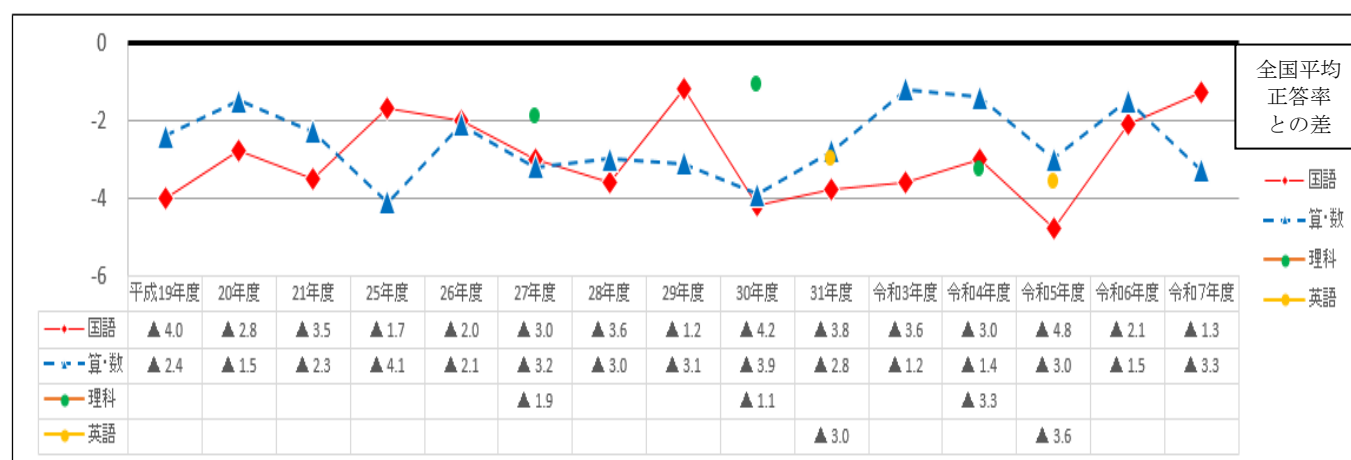


図2 鈴鹿市と全国平均正答率との差の経年変化（中3）

※平成19年度から平成30年度まではB問題の結果を反映

※平成22年度、24年度は抽出調査のため記載なし

※平成23年度は、東日本大震災の影響により実施見送り

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施見送り

5 教科に関する調査の結果

(1) 小学校 国語

※全国平均正答率との比較について

- 領域「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」については、全国平均正答率を上回った。
- 問題形式「短答式」については、全国平均正答率を上回った。
- 令和6年度と比較すると、特に問題形式「短答式」に関する領域が改善した。
- 「我が国の言語文化に関する事項」については、全国平均正答率との差が最も大きい。

表5 小学校国語における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

小学校国語		令和5年度			令和6年度			令和7年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	67	67.2	-0.2	68	67.7	0.3	66	66.8	-0.8
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.3	71.2	1.1	63.8	64.4	-0.6	79.6	76.9	2.7
	情報の扱い方に関する事項	63.4	63.4	0.0	86.1	86.9	-0.8	64.2	63.1	1.1
	我が国の言語文化に関する事項	—	—	—	76.8	74.6	2.2	79.9	81.2	-1.3
	話すこと・聞くこと	72.5	72.6	-0.1	60.4	59.8	0.6	65.6	66.3	-0.7
	書くこと	25.4	26.7	-1.3	67.7	68.4	-0.7	68.3	69.5	-1.2
	読むこと	70.7	71.2	-0.5	71.1	70.7	0.4	56.3	57.5	-1.2
問題形式	選択式	73.5	73.6	-0.1	70.5	69.9	0.6	63.6	64.7	-1.1
	短答式	63.7	62.7	1.0	55.4	59.7	-4.3	80.2	78.5	1.7
	記述式	51.4	51.1	0.3	66.2	64.6	1.6	58.6	58.8	-0.2

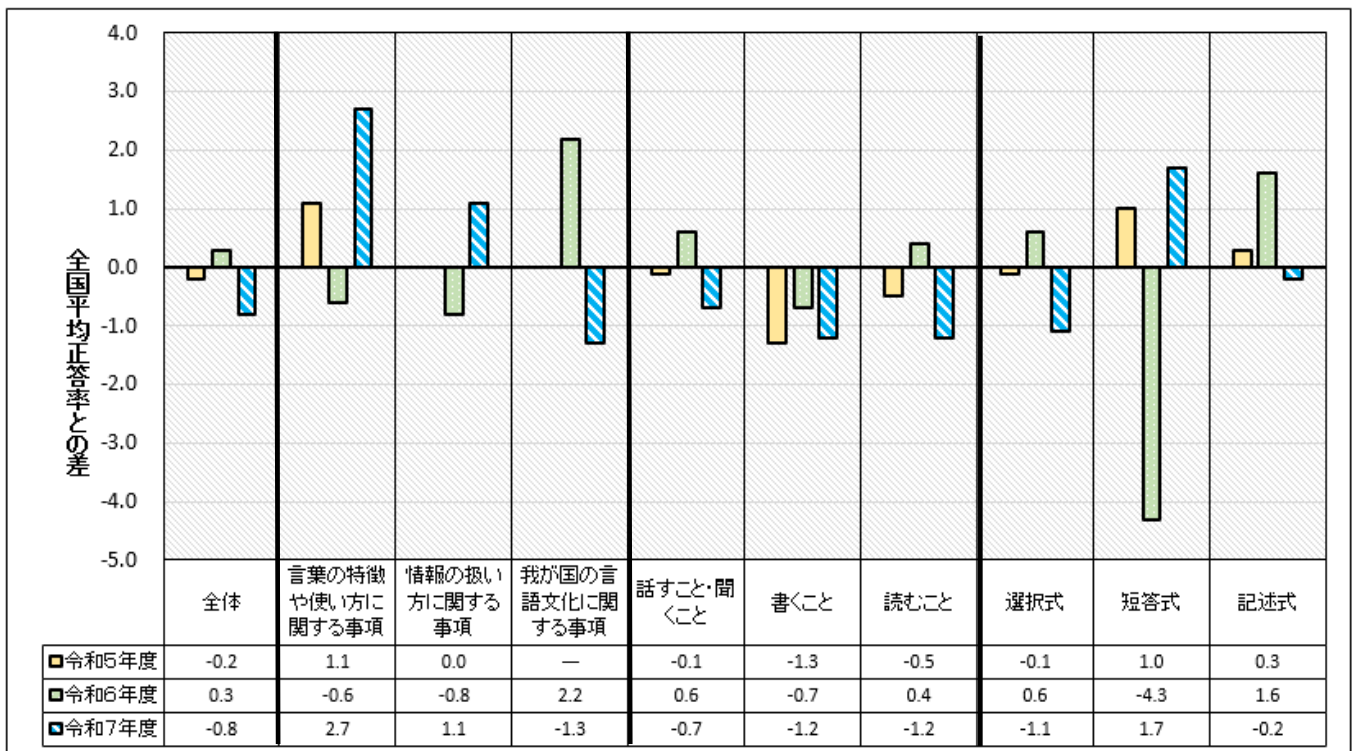


図3 小学校 国語（R5～R7経年変化）

(2) 小学校 算数

※全国平均正答率との比較について

- 令和6年度と比較すると、領域「データの活用」、問題形式「短答式」について、改善された。
- 全ての領域、問題形式別で全国平均正答率を下回った。

表6 小学校算数における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

小学校算数		令和5年度			令和6年度			令和7年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	62	62.5	-0.5	63	63.4	-0.4	57	58.0	-1.0
学習指導要領の領域等	数と計算	66.6	67.3	-0.7	65.4	66.0	-0.6	60.8	62.3	-1.5
	図形	47.2	48.2	-1.0	66.5	66.3	0.2	55.5	56.2	-0.7
	測定	-	-	-	-	-	-	52.2	54.8	-2.6
	変化と関係	70.1	70.9	-0.8	50.5	51.7	-1.2	54.5	57.5	-3.0
	データの活用	64.9	65.5	-0.6	60.8	61.8	-1.0	62.0	62.6	-0.6
問題形式	選択式	57.9	57.7	0.2	74.8	75.3	-0.5	65.4	67.2	-1.8
	短答式	74.5	74.7	-0.2	60.8	62.0	-1.2	63.5	64.0	-0.5
	記述式	44.6	47.3	-2.7	51.3	51.0	0.3	34.8	34.9	-0.1

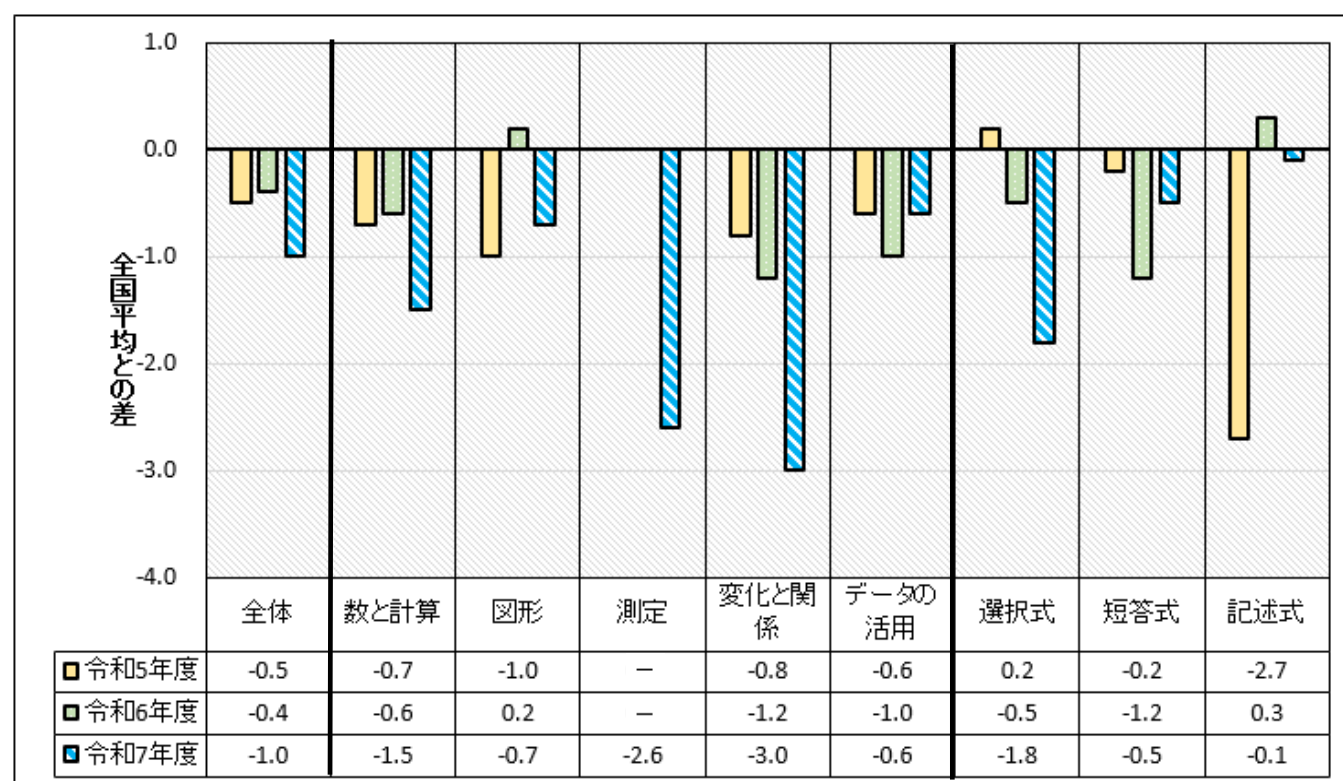


図4 小学校 算数（R5～R7 経年変化）

(3) 小学校 理科

※全国平均正答率との比較について

- 問題形式「記述式」について、全国平均正答率を上回った。
- 「『粒子』を柱とする領域」「『地球』を柱とする領域」について、改善した。
- 「『エネルギー』を柱とする領域」「『生命』を柱とする領域」及び問題形式「短答式」について、全国平均正答率を2ポイント以上下回った。

表7 小学校理科における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

小学校理科		令和4年度			令和7年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	63	63.3	-0.3	56	57.1	-1.1
学習指導要領の領域等	「エネルギー」を柱とする領域	50.7	51.6	-0.9	44.3	46.7	-2.4
	「粒子」を柱とする領域	58.6	60.4	-1.8	51.2	51.4	-0.2
	「生命」を柱とする領域	74.8	75.0	-0.2	48.2	52.0	-3.8
	「地球」を柱とする領域	62.8	64.6	-1.8	65.8	66.7	-0.9
問題形式	選択式	66.8	66.8	0.0	53.0	54.7	-1.7
	短答式	62.5	66.2	-3.7	67.0	69.7	-2.7
	記述式	47.5	47.3	0.2	47.7	45.2	2.5

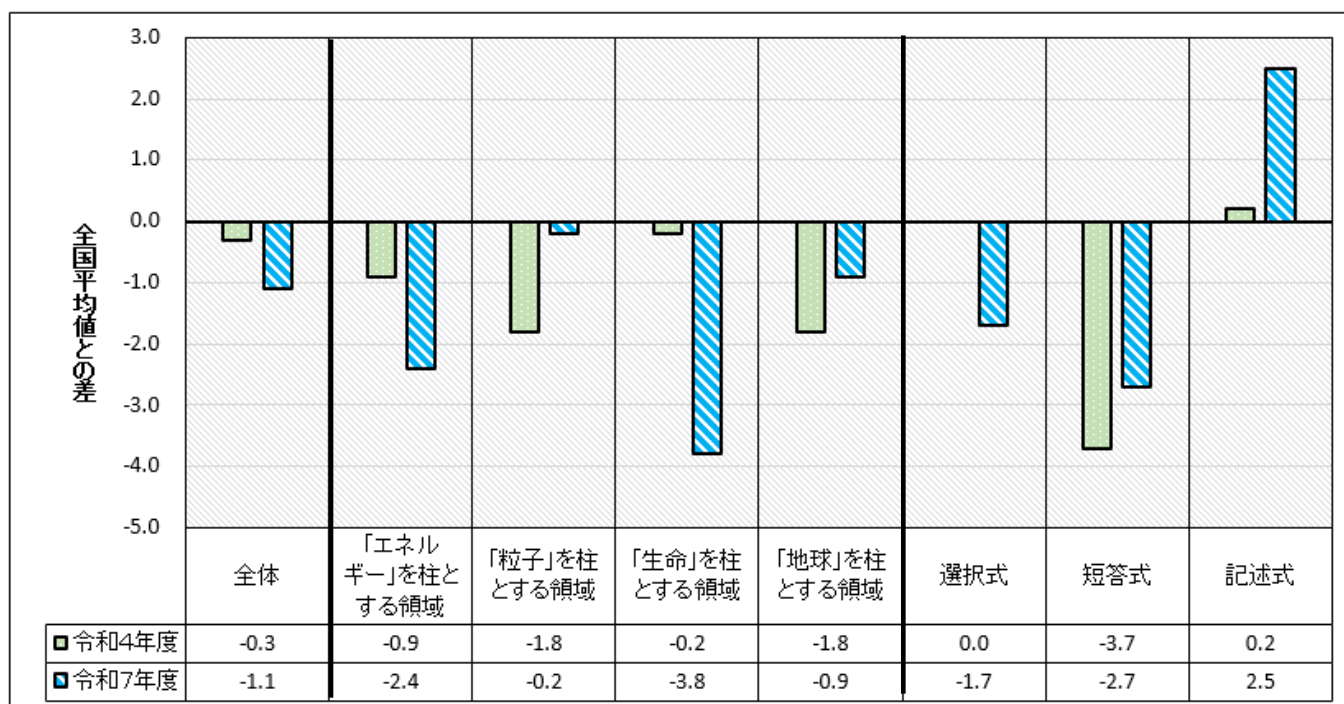


図5 小学校 理科 (R4・R7 経年変化)

(4) 中学校 国語

※全国平均正答率との比較について

- 領域「話すこと・聞くこと」、問題形式「記述式」について全国平均正答率を上回った。
- 令和6年度と比較すると、「読むこと」を除く全ての領域で改善した。
- 令和6年度と比較すると、問題形式「選択式」「記述式」で改善した。
- 経年課題となっている領域「書くこと」では、改善が見られたが、全国平均正答率を下回った。
- 問題形式「短答式」で全国との差が一番大きい。

表8 中学校国語における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

中学校国語		令和5年度			令和6年度			令和7年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
全体		65	69.8	-4.8	56	58.1	-2.1	53	54.3	-1.3
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.4	67.5	-2.1	55.7	59.2	-3.5	46.7	48.1	-1.4
	情報の扱い方に関する事項	60.0	63.4	-3.4	58.6	59.6	-1.0	-	-	-
	我が国の言語文化に関する事項	68.1	74.7	-6.6	76.7	75.6	1.1	-	-	-
	話すこと・聞くこと	79.9	82.2	-2.3	58.7	58.8	-0.1	54.0	53.2	0.8
	書くこと	58.9	63.2	-4.3	63.0	65.3	-2.3	51.4	52.8	-1.4
	読むこと	58.0	63.7	-5.7	45.7	47.9	-2.2	60.0	62.3	-2.3
問題形式	選択式	70.3	73.1	-2.8	59.9	61.0	-1.1	62.9	63.9	-1.0
	短答式	60.3	65.6	-5.3	60.6	61.8	-1.2	70.9	73.6	-2.7
	記述式	62.2	68.0	-5.8	41.7	45.5	-3.8	25.4	25.3	0.1

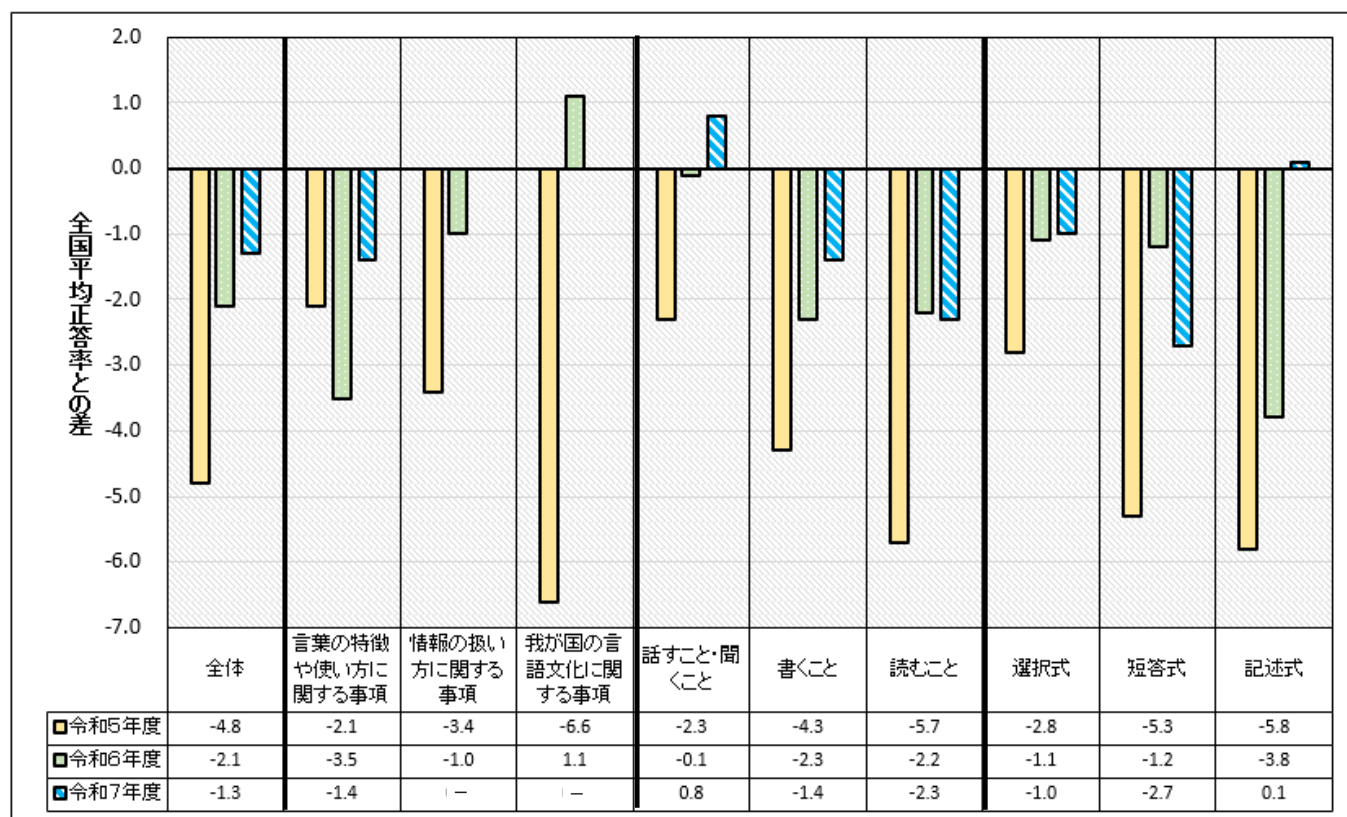


図6 中学校 国語（R5～R7経年変化）

(5) 中学校 数学

※全国平均正答率との比較について

- 令和6年度と比較すると「図形」の領域について、全国平均正答率との差が縮まり、改善した。
- 全ての領域、問題形式で全国平均正答率を2ポイント以上下回った。
- 問題形式「選択式」について、全国平均正答率との差が最も広がっている。

表9 中学校数学における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

中学校数学		令和5年度			令和6年度			令和7年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	48	51.0	-3.0	51	52.5	-1.5	45	48.3	-3.3
学習指導要領の領域等	数と式	59.5	63.0	-3.5	48.4	51.1	-2.7	39.2	43.5	-4.3
	図形	28.3	33.2	-4.9	36.1	40.3	-4.2	42.8	46.5	-3.7
	関数	49.0	51.2	-2.2	58.9	60.7	-1.8	45.3	48.2	-2.9
	データの活用	47.2	48.5	-1.3	59.2	55.5	3.7	55.1	58.6	-3.5
	選択式	42.1	45.3	-3.2	58.1	58.5	-0.4	49.1	54.0	-4.9
問題形式	短答式	59.7	62.6	-2.9	65.3	67.0	-1.7	48.8	52.0	-3.2
	記述式	38.6	41.6	-3.0	28.0	29.3	-1.3	35.9	39.6	-3.7

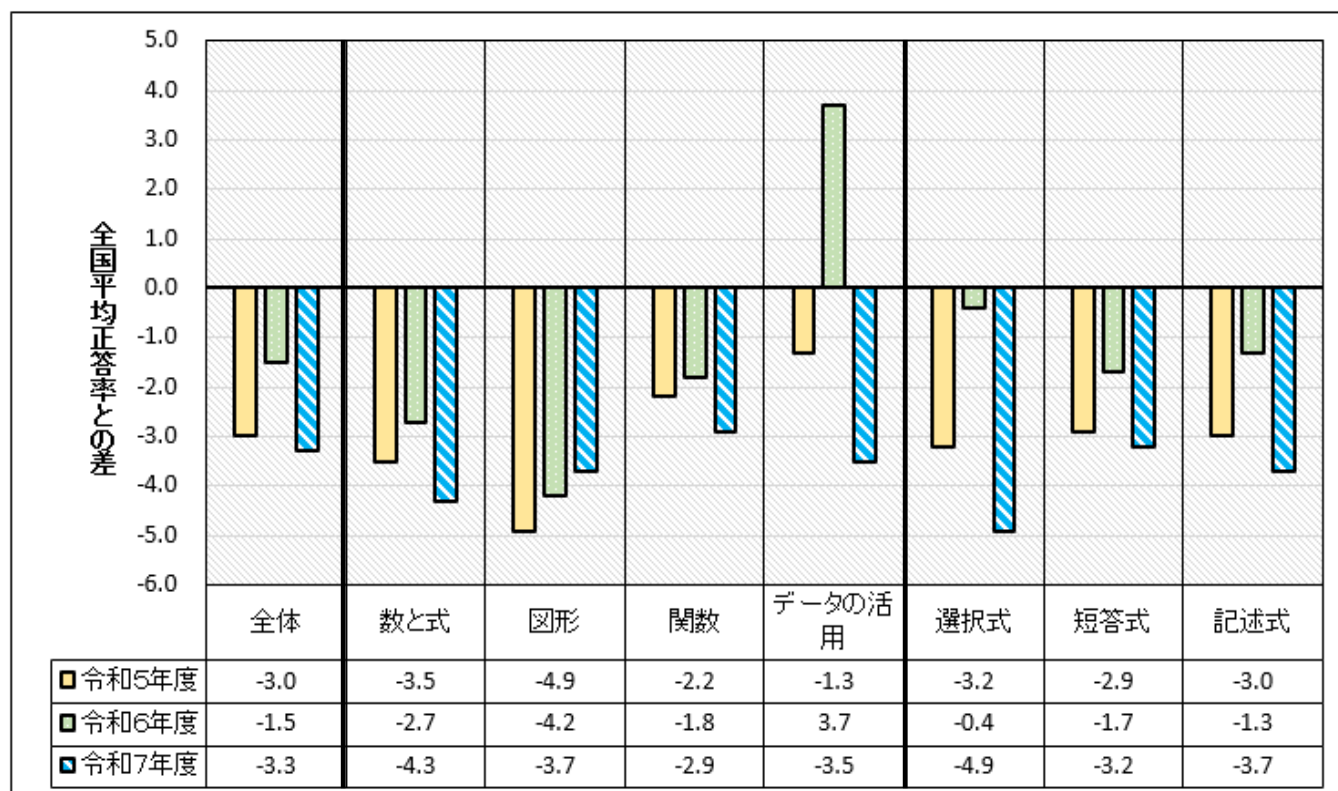


図7 中学校 数学 (R5～R7 経年変化)

(6) 中学校 理科

※IRT スコア、IRT バンドによる比較について

- IRT バンドについて、1 のバンドの割合が全国を下回った。
- IRT スコアで、全国の IRT スコアを下回った。
- IRT バンドについて、3、4、5 のバンドの割合が全国を下回った。

IRT スコアについて

各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表す。

表10 IRT スコア

鈴鹿市	全国	差
497	503	▲6

IRT バンドについて

IRT スコアを1から5の5段階に区切ったもの。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドになる。

IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）

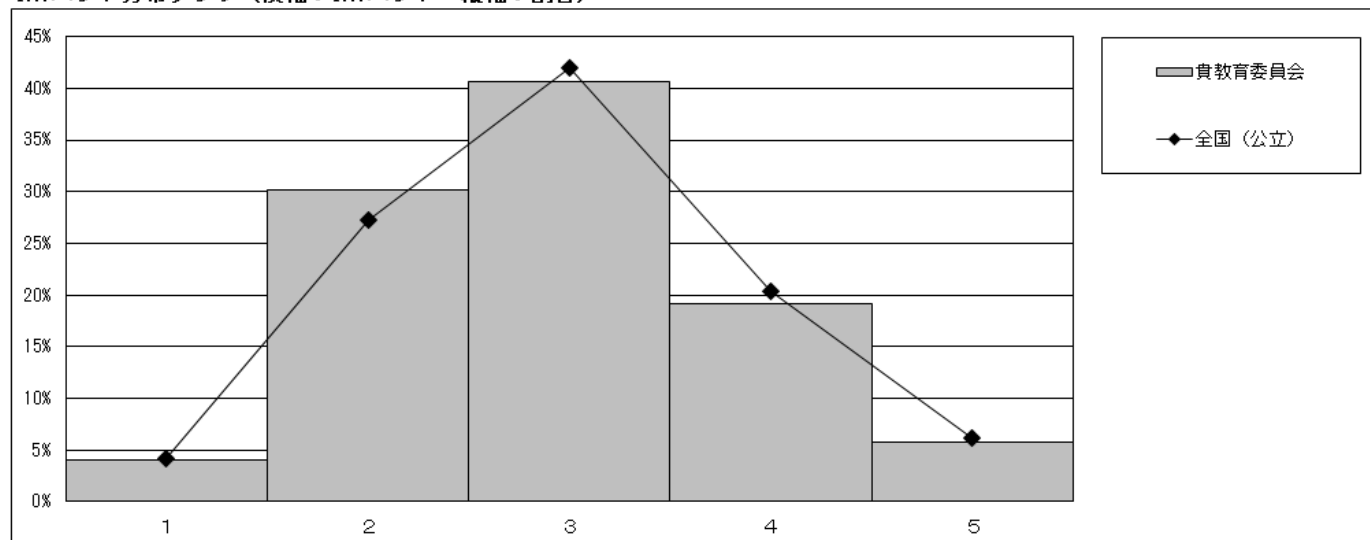


図8 IRT バンド

6 各教科に関する質問調査の結果

本稿の見方

- * 質問文は、令和7年度調査を掲載している。なお、令和5年度、令和6年度とわずかに文言が異なる質問については、同質問と捉え、データを記載している。
- * 肯定的回答とは、選択肢のうち「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」（又は、それに類する選択肢）と回答したそれぞれの割合の合計を示す。
- * 児童・生徒質問調査と学校質問調査の結果を照合し、校種・教科別に課題を記載している。

(1) 小学校国語に関する質問調査の結果

児童質問調査

表1-1 児童の「国語の学習に対する興味・関心や授業の理解度等」に係る質問 肯定的回答の割合（％）

R7 質問 番号	質 問	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R7 全国 (公立)	R7 全国 平均 との差
44	国語の勉強は得意ですか【新規】	—	—	54.8	61.4	▲6.6
45	国語の勉強は好きですか	54.0	56.2	50.5	58.3	▲7.8
46	国語の授業の内容はよく分かりますか	83.1	82.5	77.0	82.8	▲5.8
47	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.8	91.0	90.0	90.4	▲0.4
48	国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか【新規】	—	—	73.7	78.2	▲4.5
49	国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか【新規】	—	—	71.3	75.5	▲4.2
50	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか	—	79.3	79.2	81.8	▲2.6
51	国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか【新規】	—	—	75.0	79.1	▲4.1

表1-2 児童の「調査問題（国語）の解答状況」に係る質問における割合（％）

R7 質問 番号	質 問	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R7 全国 (公立)	R7 全国 平均 との差
国1	解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	79.6	80.4	82.7	81.7	+1.0

(2) 小学校算数に関する質問調査の結果

児童質問調査

表 1 3 児童の「算数の学習に対する興味・関心や授業の理解度等」に係る質問 肯定的回答の割合（％）

R7 質問 番号	質 問	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R7 全国 (公立)	R7 全国 平均 との差
52	算数の勉強は得意ですか【新規】	—	—	60.8	60.3	+0.5
53	算数の勉強は好きですか	59.6	63.6	55.0	57.9	▲2.9
54	算数の授業の内容はよく分かりますか	78.2	83.6	77.2	78.3	▲1.1
55	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.5	93.5	92.1	91.6	+0.5
56	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか【新規】	—	—	82.9	83.3	▲0.4
57	算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	—	83.3	79.5	82.3	▲2.8
58	算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている【新規】	—	—	64.3	65.5	▲1.2
59	小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか【新規】	—	—	77.0	80.6	▲3.6

表 1 4 児童の「調査問題（算数）の解答状況」に係る質問における肯定的回答の割合（％）

R7 質問 番号	質 問	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R7 全国 (公立)	R7 全国 平均 との差
算 1	言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、それらの問題についてどのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	77.6	80.2	74.7	74.5	+0.2

(3) 小学校理科に関する質問調査の結果

児童質問調査

表 1 5 児童の「理科の学習に対する興味・関心や授業の理解度等」に係る質問 肯定的回答の割合（％）

R7 質問 番号	質 問	R4 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R7 全国 (公立)	R7 全国 平均 との差
60	理科の勉強は得意ですか【新規】	—	74.1	78.4	▲4.3
61	理科の勉強は好きですか	75.3	77.2	80.1	▲2.9

62	理科の授業の内容はよく分かりますか	84.6	86.2	88.9	▲2.7
63	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	74.8	80.0	79.9	+0.1
64	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	25.8	30.5	30.0	+0.5
65	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか	75.0	64.3	63.2	+1.1
66	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか【新規】	—	65.7	68.9	▲3.2
67	理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか【新規】	—	91.2	92.4	▲1.2
68	理科の授業では、問題に対して答えがどのようなものか、自分で予想（仮説）を考えていますか【新規】	—	84.1	85.7	▲1.6
69	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	84.3	87.6	88.4	▲0.8
70	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか【新規】	—	74.4	76.0	▲1.6

表 1 6 児童の「調査問題（理科）の解答状況」に係る質問における肯定的回答の割合（％）

R7 質問 番号	質 問	R4 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R7 全国 (公立)	R7 全国 平均 との差
理 1	解答を文章などで書く問題がありましたが、どのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	79.1	82.1	81.8	+0.3

（４）中学校国語に関する質問調査の結果

生徒質問調査

表 1 7 生徒の「国語の学習に対する興味・関心や授業の理解度等」に係る質問 肯定的回答の割合（％）

R7 質問 番号	質 問	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R7 全国 (公立)	R7 全国 平均 との差
44	国語の勉強は得意ですか【新規】	—	—	56.0	51.4	+4.6
45	国語の勉強は好きですか	60.4	69.4	60.9	57.9	+3.0
46	国語の授業の内容はよく分かりますか	81.1	87.4	83.3	77.0	+6.3
47	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	88.2	92.3	89.5	88.3	+1.2
48	国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか【新規】	—	—	78.9	72.9	+6.0
49	国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてください【新規】	—	—	74.8	70.2	+4.6

50	国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか【新規】	—	—	76.9	74.0	+2.9
51	国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか【新規】	—	—	74.8	73.6	+1.2

表 18 生徒の「調査問題（国語）の解答状況」に係る質問における肯定的回答の割合（％）

R7 質問 番号	質 問	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R7 全国 (公立)	R7 全国 平均 との差
国 1	解答を文章で書く問題がありましたが、それらの問題についてどのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	68.0	71.5	65.2	65.3	▲0.1

(5)中学校数学に関する質問調査の結果

生徒質問調査

表 19 生徒の「数学の学習に対する興味・関心や授業の理解度等」に係る質問 肯定的回答の割合（％）

R7 質問 番号	質 問	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R7 全国 (公立)	R7 全国 平均 との差
52	数学の勉強は得意ですか【新規】	—	—	43.5	46.0	▲2.5
53	数学の勉強は好きですか	59.4	57.8	48.3	53.8	▲5.5
54	数学の授業の内容はよく分かりますか	74.2	78.2	69.8	70.3	▲0.5
55	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	75.9	81.4	76.5	75.2	+1.3
56	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか【新規】	—	—	59.9	57.9	+2.0
57	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	—	79.0	73.6	76.2	▲2.6
58	数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか【新規】	—	—	57.4	58.6	▲1.2
59	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかっていることを理解することができますか【新規】	—	—	67.0	67.1	▲0.1

表 20 生徒の「調査問題（数学）の解答状況」に係る質問における肯定的回答の割合（％）

R7 質問 番号	質 問	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R7 全国 (公立)	R7 全国 平均 との差
数 1	解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたがそれらの問題についてどのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	56.1	49.2	53.9	54.9	▲1.0

(6)中学校理科に関する質問調査の結果

生徒質問調査

表 2 1 生徒の「理科の学習に対する興味・関心や授業の理解度等」に係る質問 肯定的回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	R4 鈴鹿市	R7 鈴鹿市	R7 全国 (公立)	R7 全国 平均 との差
60	理科の勉強は得意ですか【新規】	—	53.3	50.7	+2.6
61	理科の勉強は好きですか	54.9	63.4	63.8	▲0.4
62	理科の授業の内容はよく分かりますか	67.4	75.8	71.4	+4.4
63	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	56.3	65.7	63.4	+2.3
64	将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか	20.1	22.9	21.7	+1.2
65	理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できていますか【新規】	—	59.0	54.7	+4.3
66	理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか【新規】	—	54.8	50.7	+4.1
67	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか【新規】	—	56.4	56.2	+0.2
68	理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか【新規】	—	80.2	85.8	▲5.6
69	理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに、観察や実験の計画を立てていますか	63.8	72.0	70.2	+1.8
70	理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか【新規】	—	71.3	68.4	+2.9

7 鈴鹿市の重点取組等に関する児童生徒質問調査の結果

まとめ方に関して

○質問項目の抽出理由

鈴鹿市の重点取組に関する項目であること

※昨年度抽出した項目、学力向上分析シートで抽出した項目及び新規の項目の中で平均正答率と一定の関係性が見られる項目

○4つの分類

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

質問番号・・・(32)(33)(34)(35)(37)

(2) ICTを活用した学習状況

質問番号・・・(28)(29-2)(29-3)(29-4)(30-6) ※下線は新規の質問項目

(3) 家庭学習に関する取組状況

質問番号・・・(17)(19)

(4) 非認知能力等に関する状況

質問番号・・・(5)(12)(16)

○記述による分析の視点

(1) R7 鈴鹿市と R6 鈴鹿市の比較、R7 鈴鹿市と R7 全国の比較

(2) 鈴鹿市における経年変化（5年以内）が特徴的なものについて記述

(3) クロス集計の結果、平均正答率との一定の関係性について記述

本年度の結果の概要

本市の結果が全国比、前年度比ともに上回る（下回る）質問項目		<u>上回る</u> 小 中 (12)、(28)		<u>下回る</u> 小 (12)、(16)(17)、 (19)、(30-6)、 (32)、(33)、(34)、 (35)(37) 中 (16)、(19)、(35)
本市の結果が前年度より5ポイント以上上回る（下回る）質問項目		<u>上回る</u> 小 (28) 中 (28)		<u>下回る</u> 小 (19)、(32)、(37) 中 (37)
本市の結果が全国より5ポイント以上上回る（下回る）質問項目		<u>上回る</u> 小 中 (28)		<u>下回る</u> 小 (19)、(29-3) 中 (19)
経年変化（5年以内）において本年度が最も高い（低い）質問項目		<u>高い</u> 小 (5)、(28) 中 (5)、(12)、(28)		<u>低い</u> 小 (17)、(19) 中 (19)、(32)

○平均正答率と強い関係性が見られた質問項目

小 (16)、(28)、(29-2)、(29-3)、(29-4)、(32)、(33)(37)

中 (16)、(29-2)、(29-3)、(29-4)、(32)、(33)、(34)、(35)

資料の見方

<矢印記号について>

- ↗・・・本市の結果が全国比、前年度比ともに上回る（下回る）質問項目
- ↖・・・本市の結果が前年度より5ポイント以上上回る（下回る）質問項目
- ↘・・・本市の結果が全国より5ポイント以上上回る（下回る）質問項目
- ➡・・・経年変化（5年以内）において、本年度が最も高い（低い）質問項目

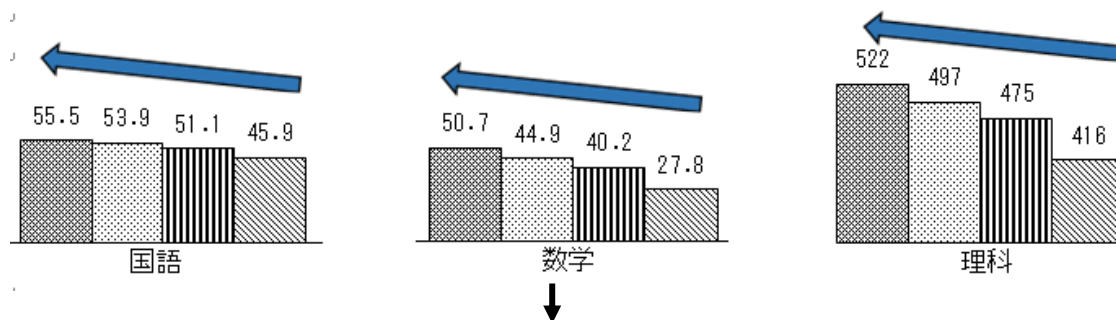
<グラフの見方について>

- ・上段の帯グラフは、質問項目に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本市の経年の状況を示します。
- ・下段の棒グラフは、質問項目に対する本市の回答別の平均正答率及び中学校理科のIRTスコア（R7年度）を示します。
- ・グラフには、無回答の値を入れていないため、合計が100%にならない場合があります。

<記述について>

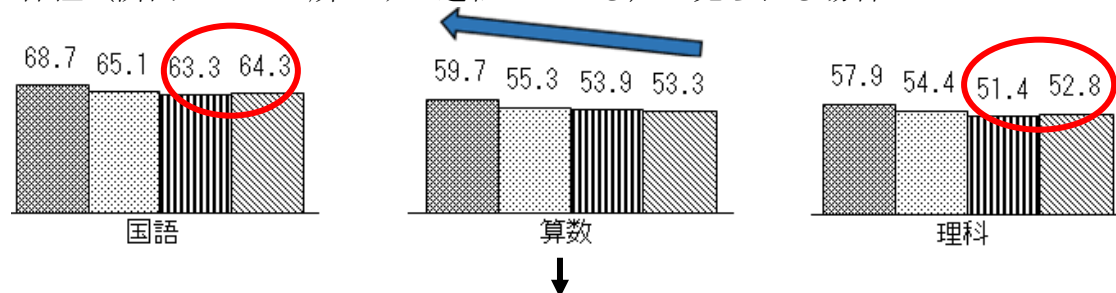
- ・平均正答率及び中学校理科のIRTスコア（R7年度）と一定の関係性が見られる質問項目については、次のように記述しています。

（例1）全教科に一定の関係性が見られる（青矢印）場合（＝強い関係性が見られた質問項目）



「中学校は1、2年生のときに受けた授業が、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。」

（例2）1教科もしくは2教科には一定の関係性が見られるが、残りの教科にはある程度関係性（隣同士の1か所のみが逆転している）が見られる場合

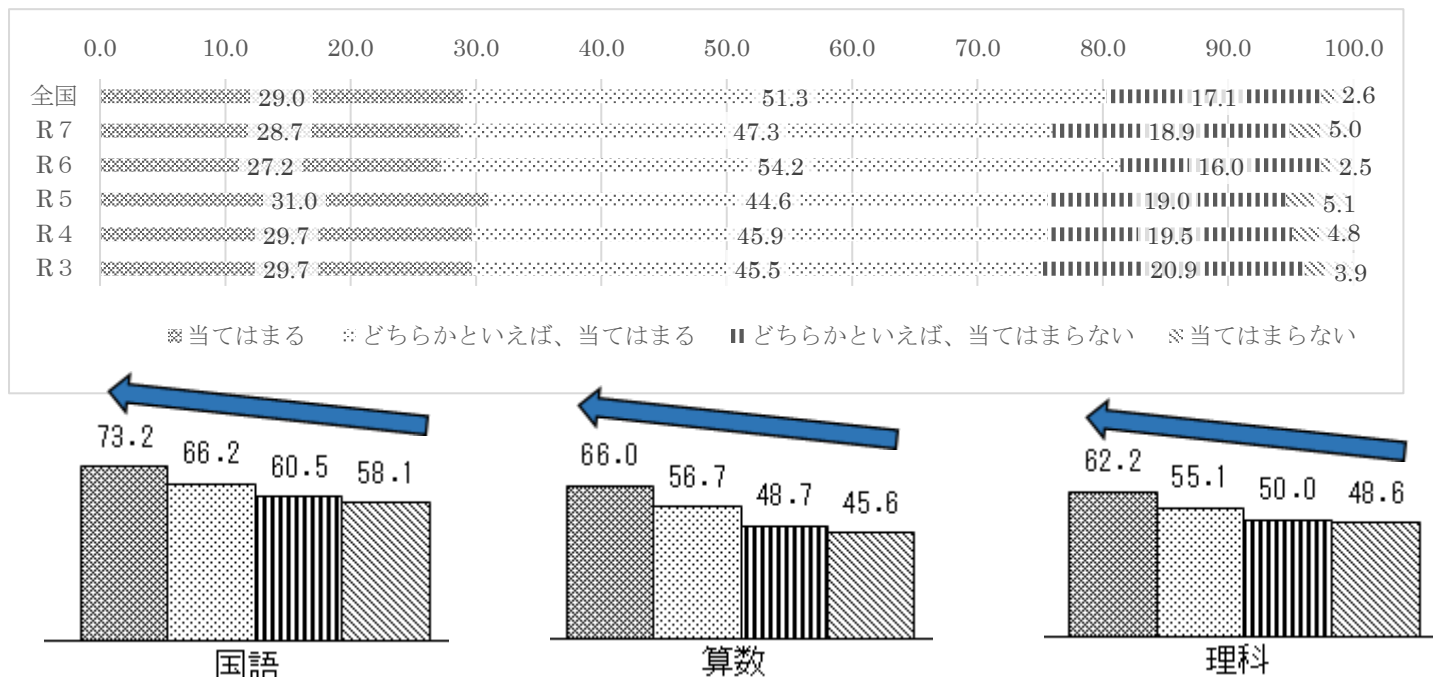


「小中学校ともに、自分にはよいところがあると思っている児童ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。」

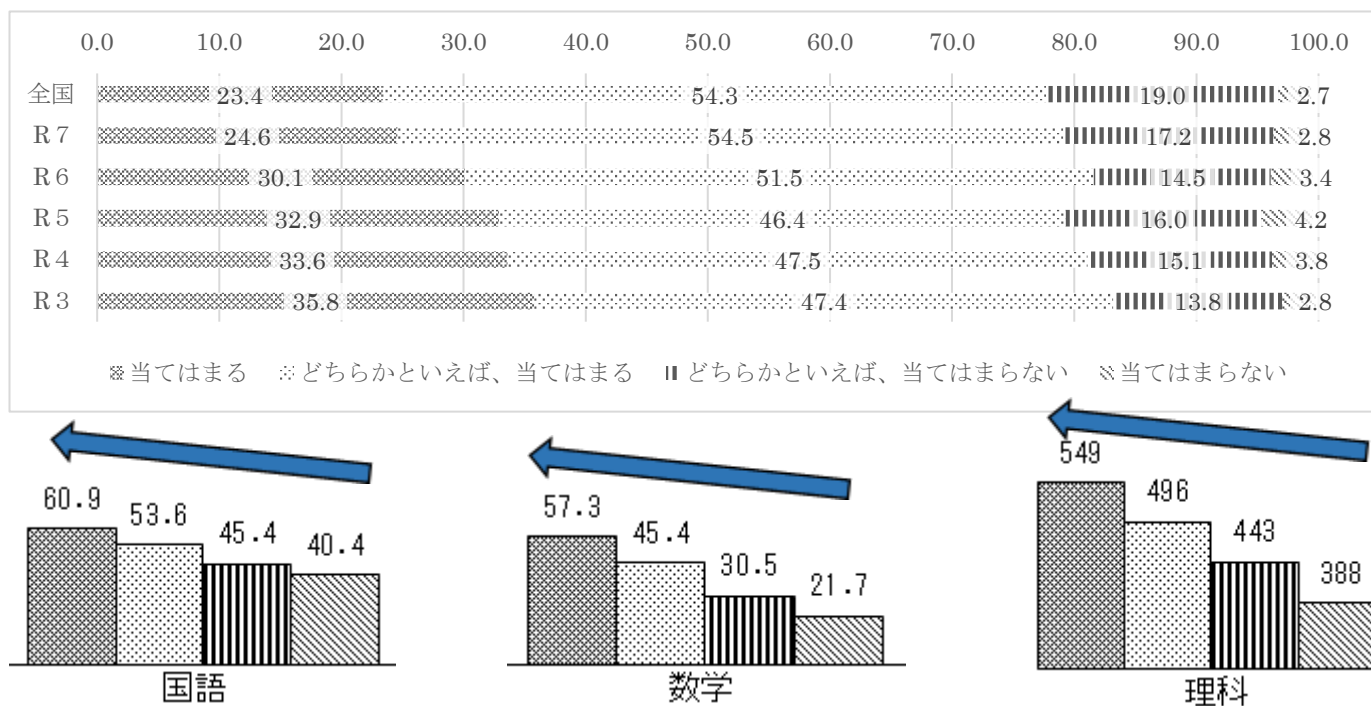
(1)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

【児童生徒質問調査(32)】 5年生まで(中学校は1、2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

小学校



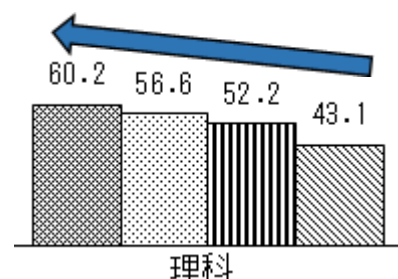
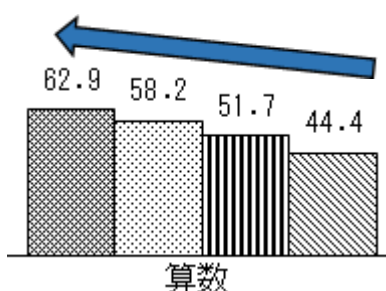
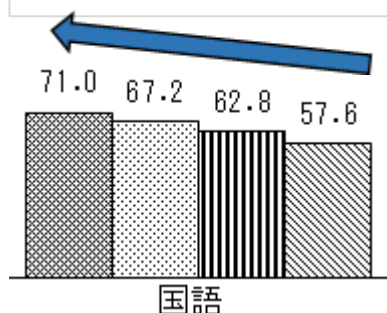
中学校



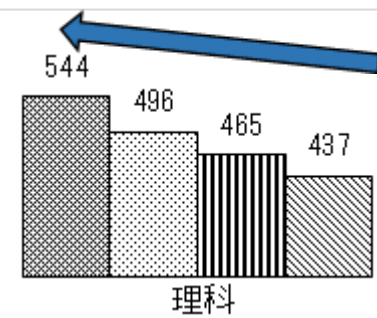
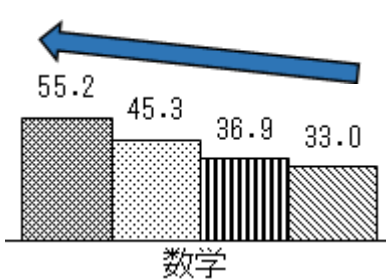
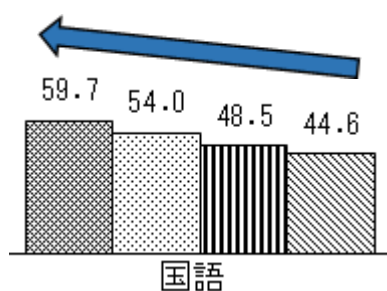
小学校は、肯定的回答割合が76.0%で R6年度の81.4%を大きく下回り、全国の80.3%も下回っている。中学校は、肯定的回答割合が79.1%と R6年度の81.6%を下回っているが、全国の77.7%は上回っている。中学校の肯定的回答割合は、R3年度以降において最も低くなっている。小中学校ともに課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査(33)】 5年生まで(中学校は1、2年生のとき)に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

小学校



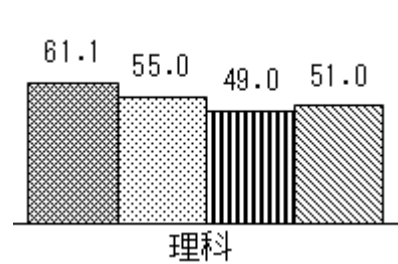
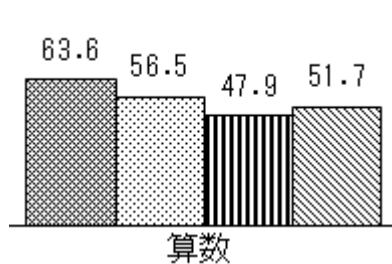
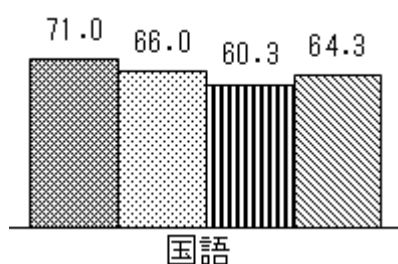
中学校



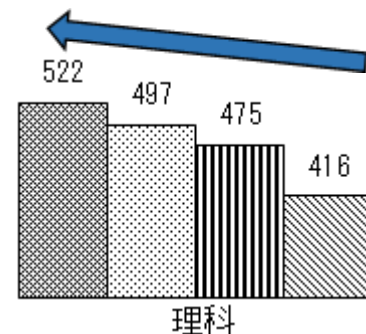
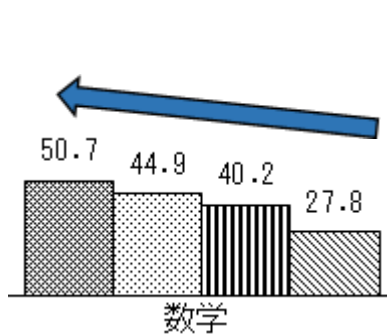
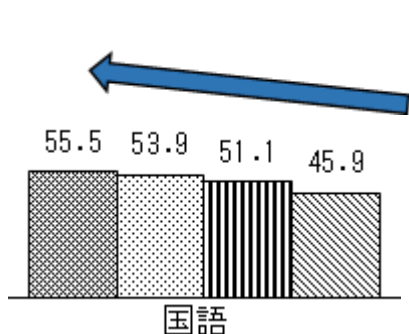
小学校は、肯定的回答割合が74.0%でR6年度の77.2%を下回り、全国の77.8%も下回っている。中学校は、肯定的回答割合が71.2%とR6年度の75.3%を下回っているが、全国の70.6%は上回っている。小中学校ともに各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査(34)】 5年生まで(中学校は1、2年生のとき)に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

小学校



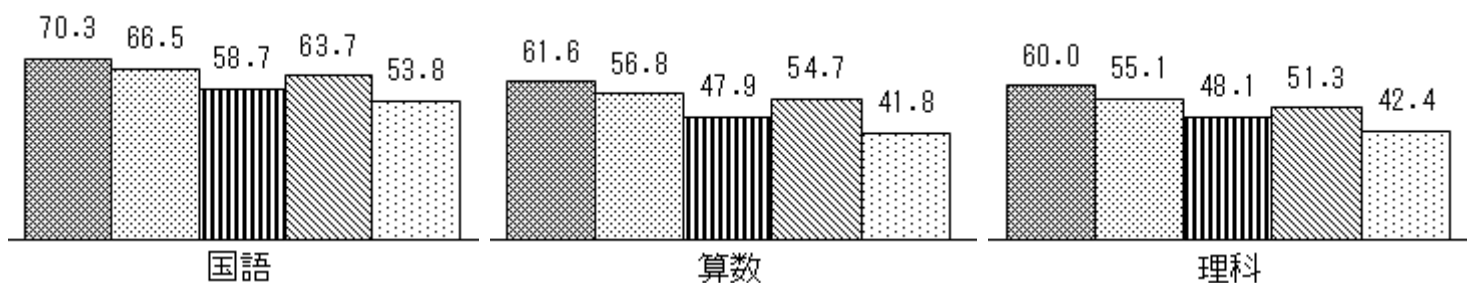
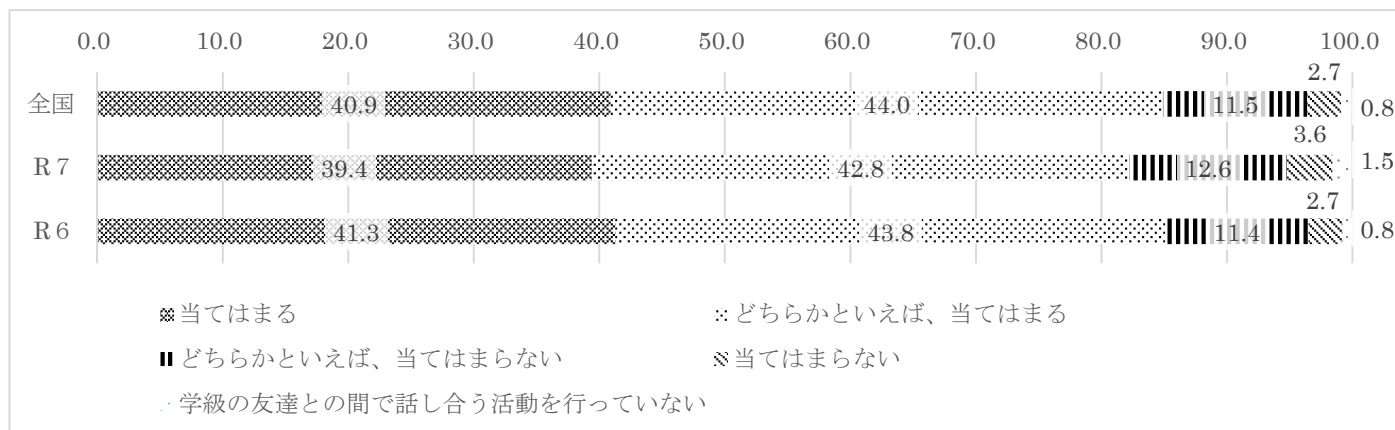
中学校



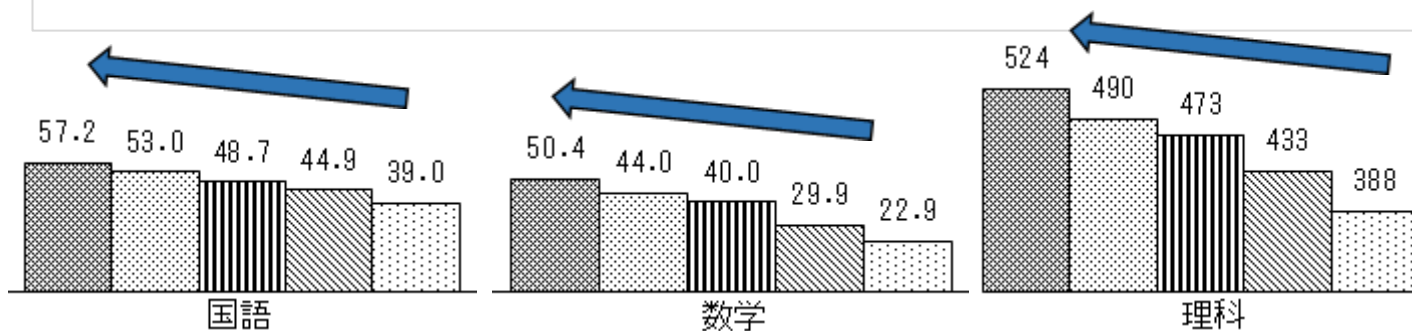
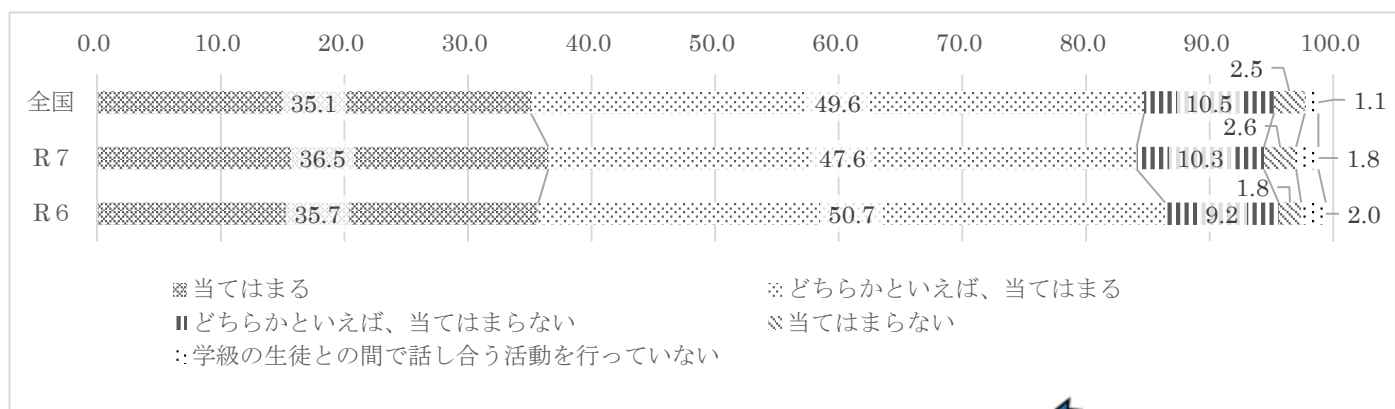
小学校は、肯定的回答割合が80.5%とR6年度の82.5%を下回り、全国の83.4%も下回っている。中学校は、肯定的回答割合が80.4%とR6年度の83.6%を下回っているが、全国の79.3%は上回っている。中学校は1、2年生のときに受けた授業が、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査(35)】 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか

小学校



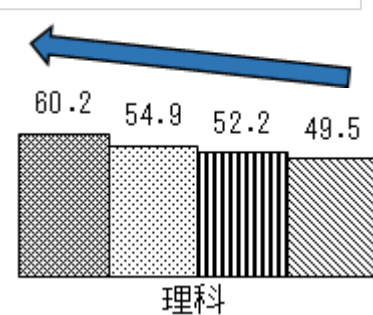
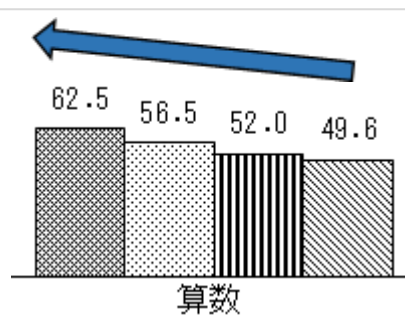
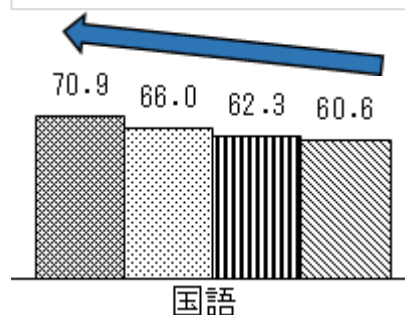
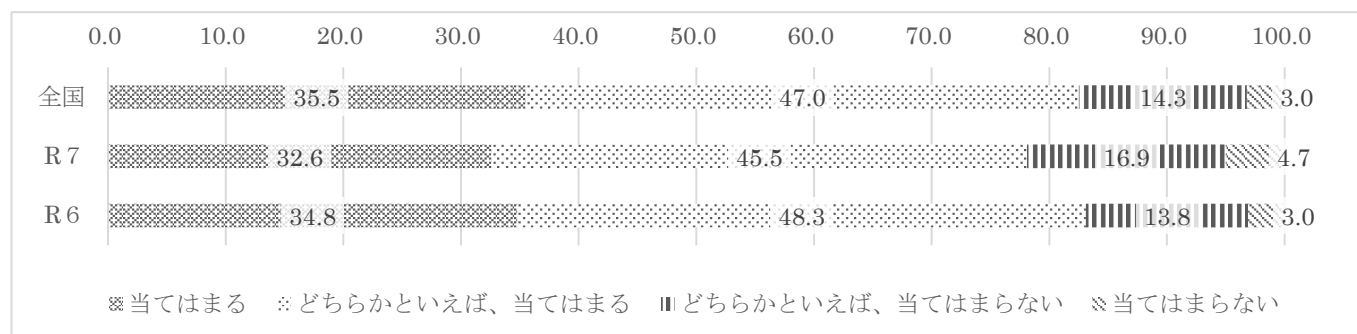
中学校



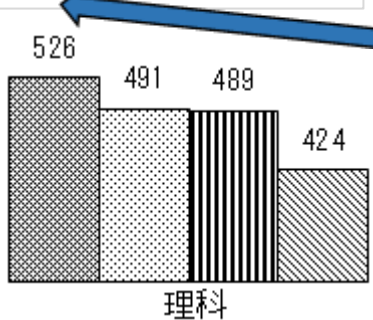
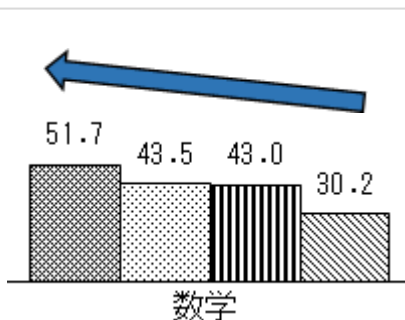
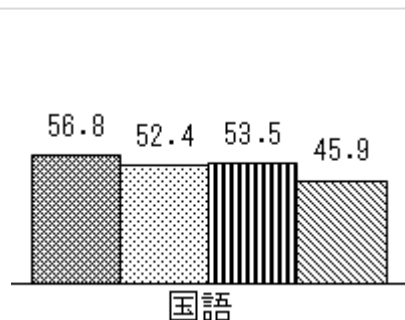
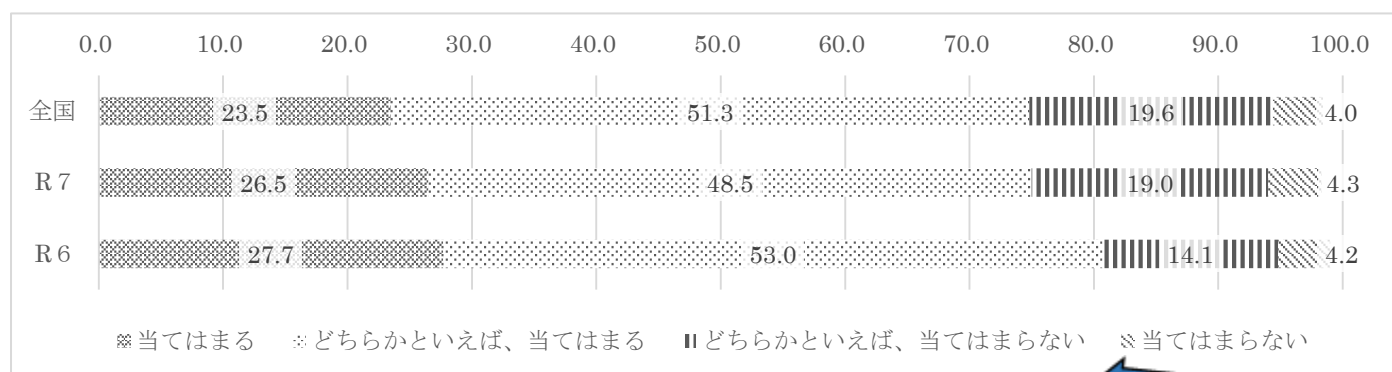
小学校は、肯定的回答割合が 82.2%で、R6年度の85.1%を下回り、全国の 84.9%も下回っている。中学校は、肯定的回答割合が 84.1%で、R6年度の86.4%を下回り、全国の 84.7%も下回っている。中学校は、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査(37)】 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか

小学校



中学校

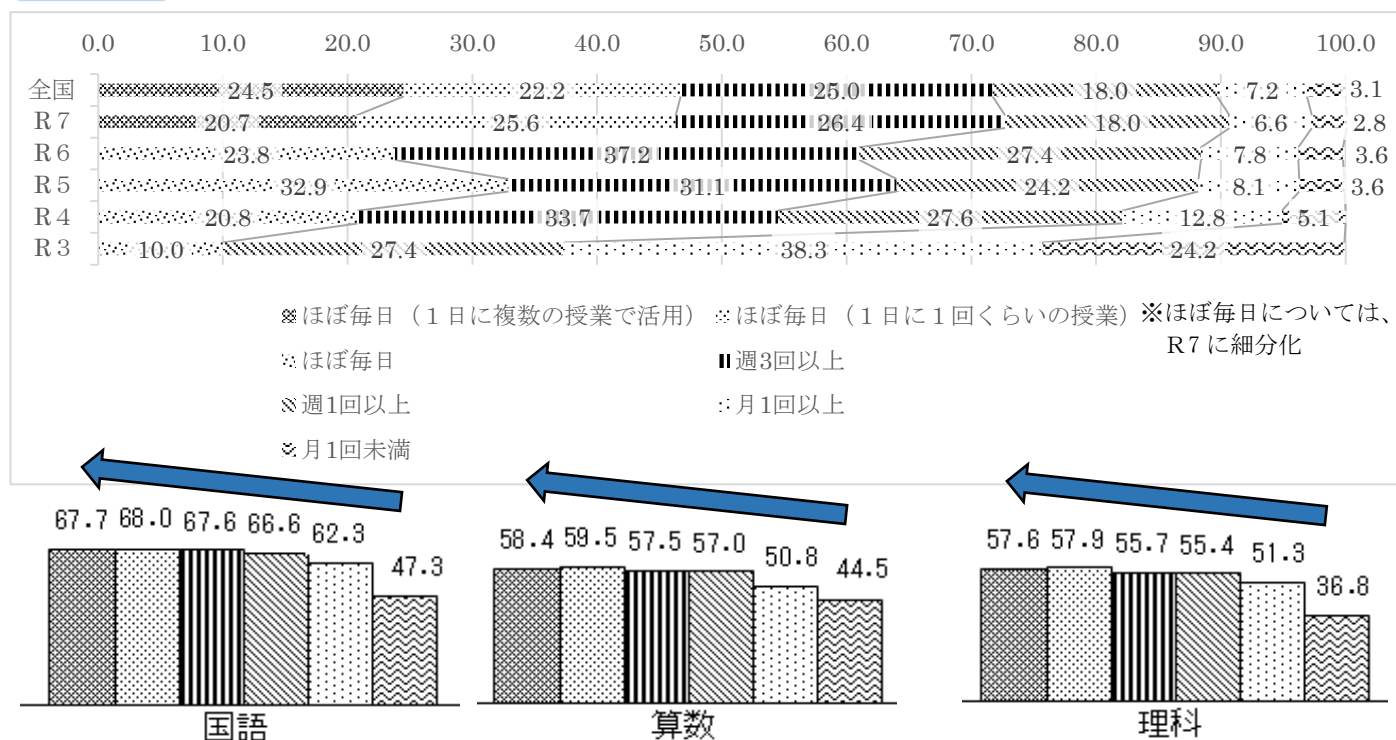


小学校は、肯定的回答割合が78.1%で、R6年度の83.1%を大きく下回り、全国の82.5%も下回っている。中学校は、肯定的回答割合が75.0%と、R6年度の80.7%を大きく下回っているが、全国の74.8%は上回っている。小学校は授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる児童ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。中学校は、授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる生徒ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

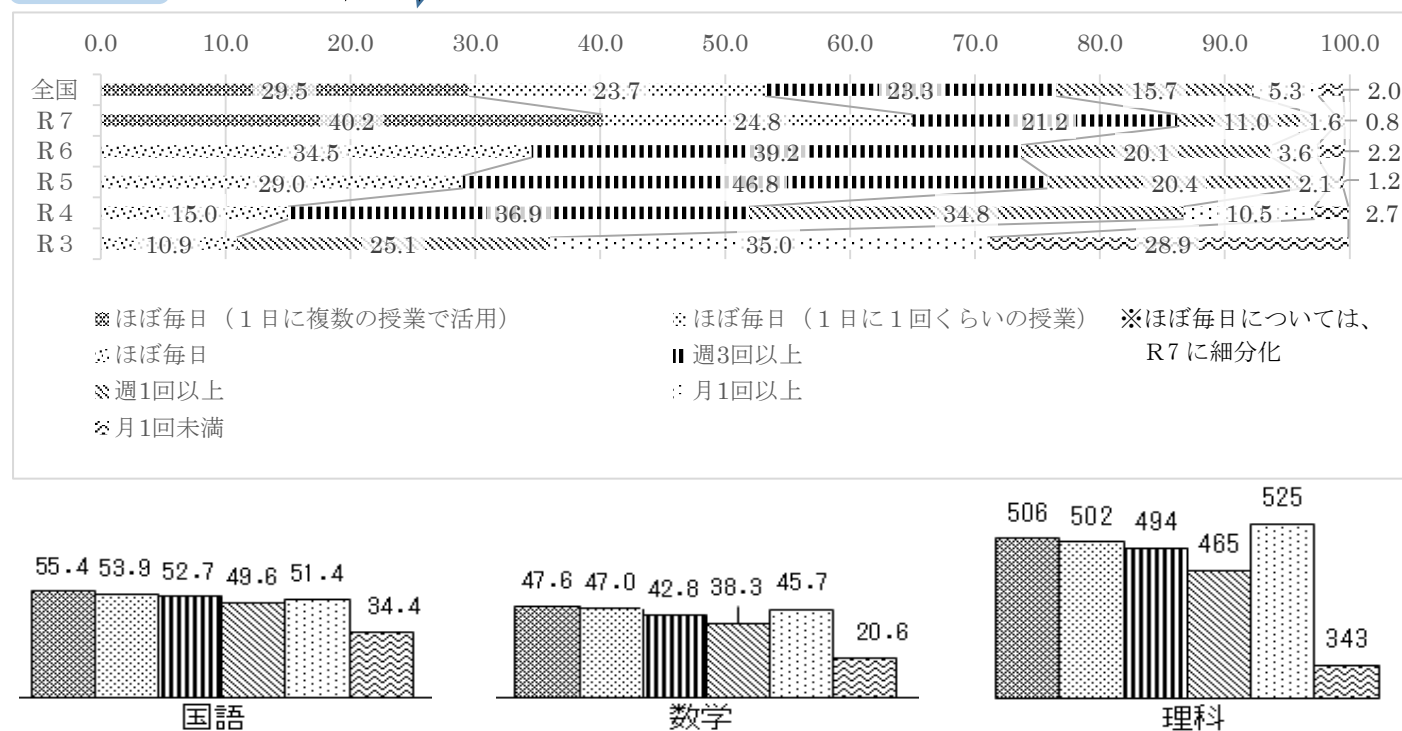
(2)ICT を活用した学習状況

【児童生徒質問調査(28)】 5年生まで(中学校は1、2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

小学校



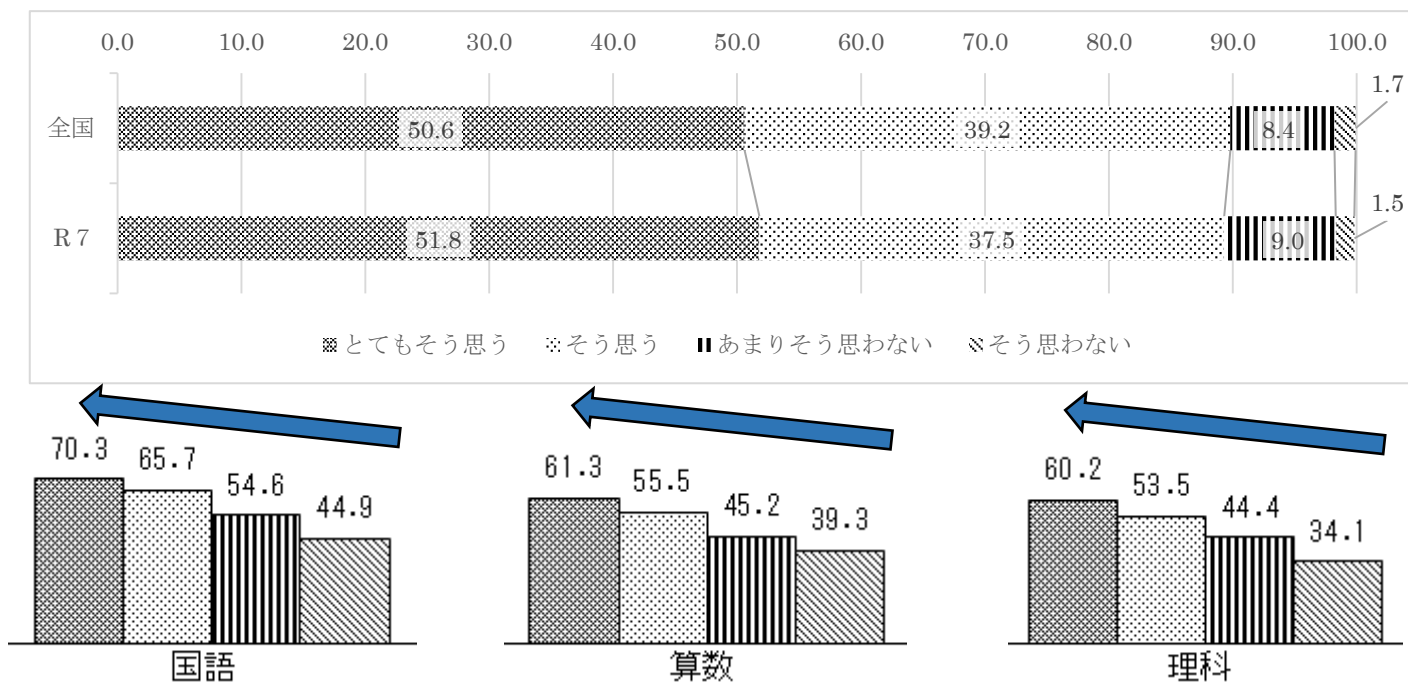
中学校



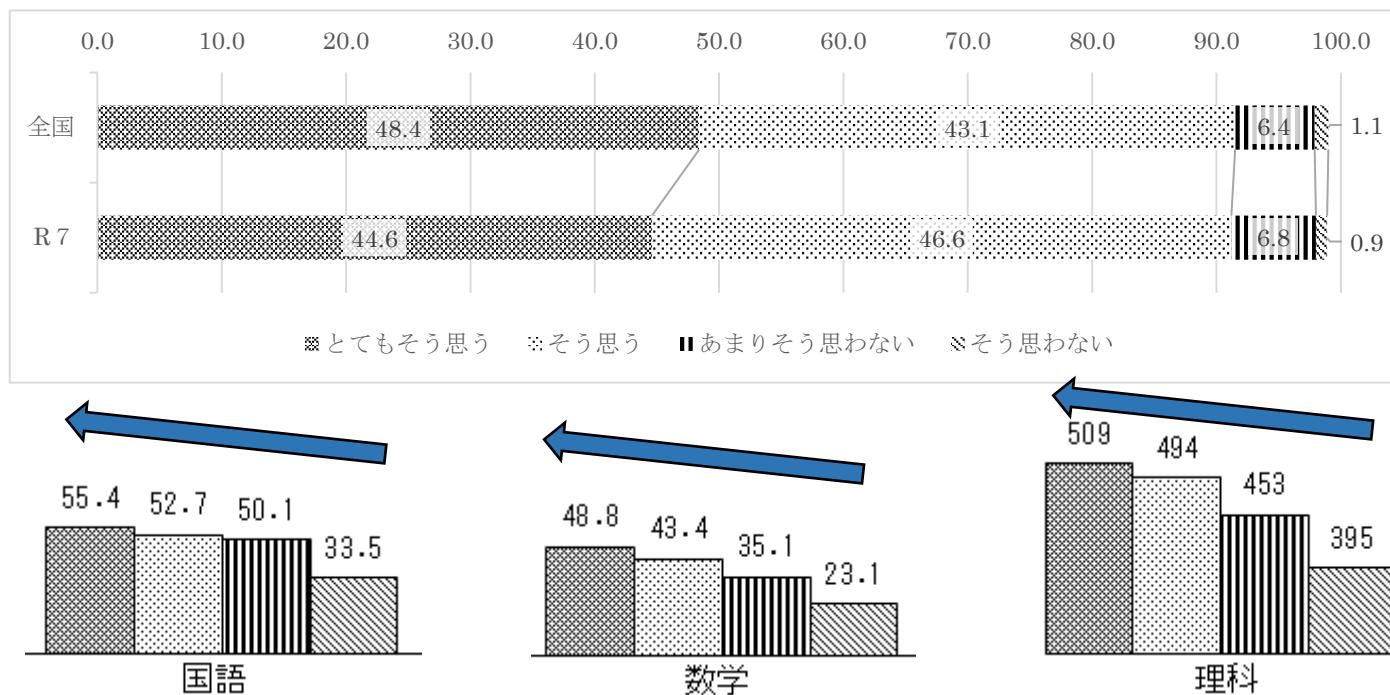
小学校は、「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用及び1日に1回くらいの授業)」と回答した割合が46.3%とR6年度の23.8%を大きく上回っているが、全国の46.7%は下回っている。中学校は、「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用及び1日に1回くらいの授業)」と回答した割合が65.0%とR6年度の34.5%を大きく上回り、全国の53.2%も大きく上回っている。小中学校ともに、「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用及び1日に1回くらいの授業)」と回答した割合が、R3年度以降において最も高くなっている。小中学校は5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を活用した頻度が高い児童ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。(※ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)及びほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)を一つと見なして、関係性を記載しています。)

【児童生徒質問調査(29-2)】 あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができますか

小学校



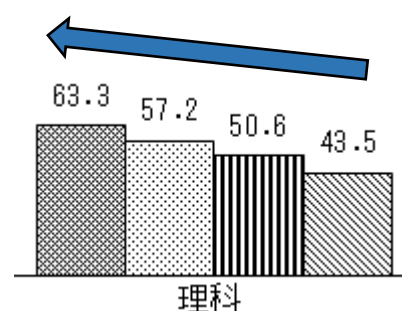
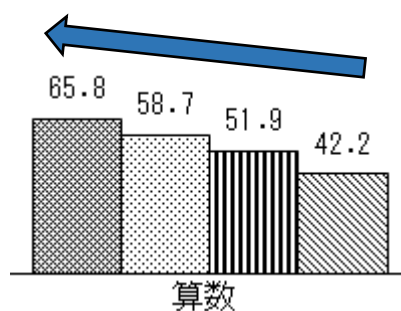
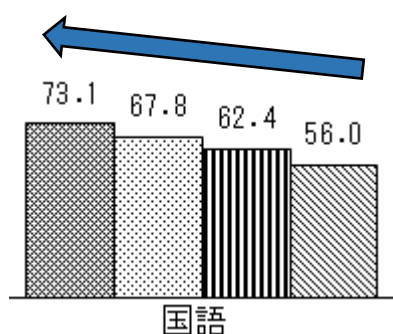
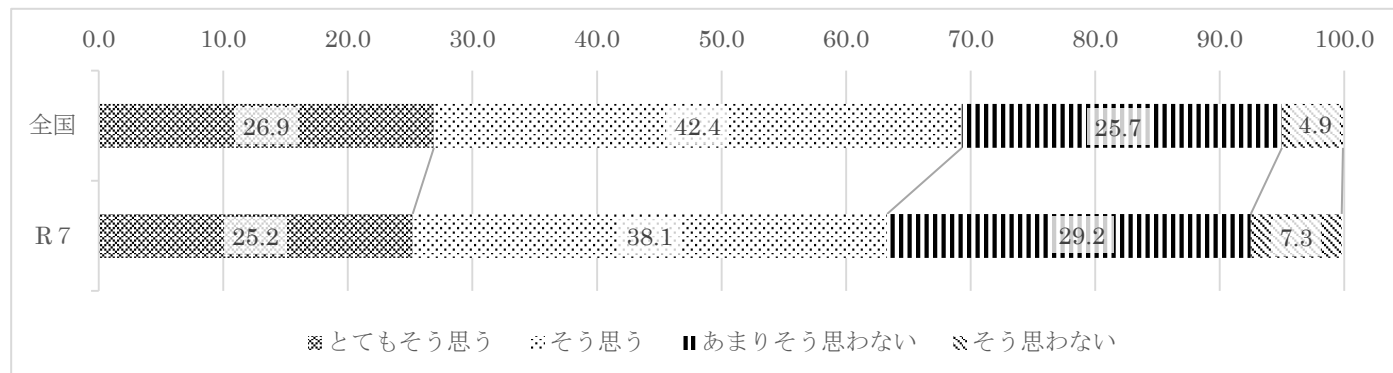
中学校



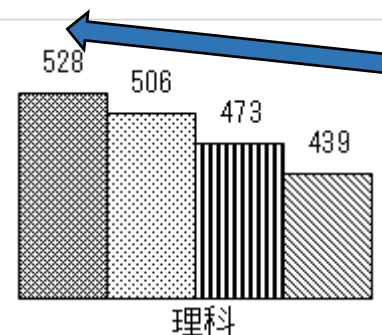
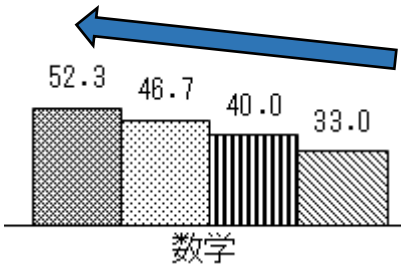
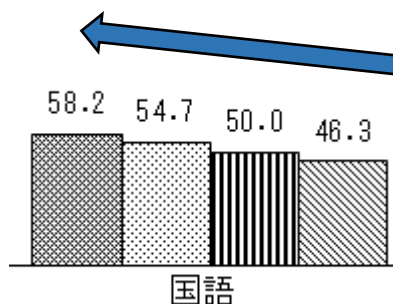
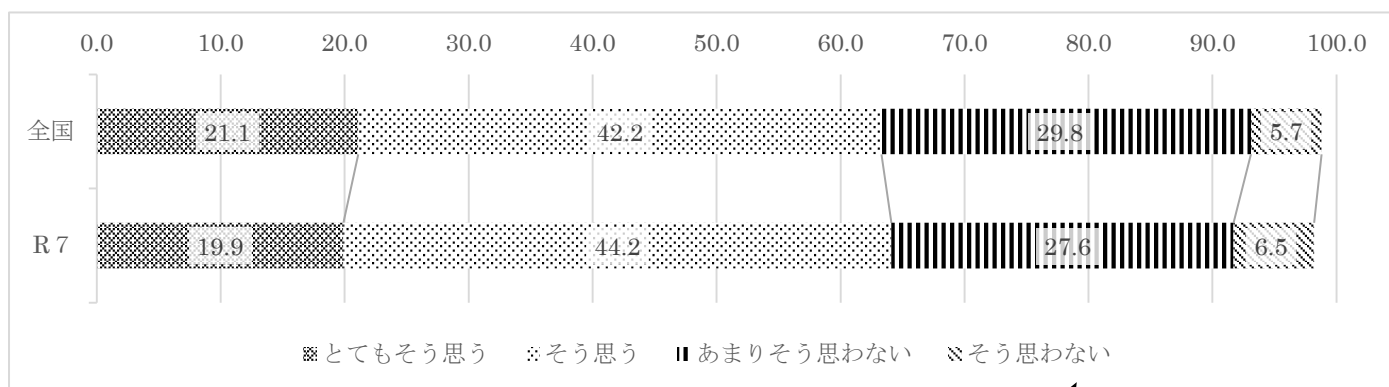
小学校は、肯定的回答割合が89.3%と、全国の89.8%を下回っている。中学校は、肯定的回答割合が91.2%と、全国の91.5%を下回っている。小中学校ともに、インターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると思っている児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査(29-3)】 あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができますか

小学校



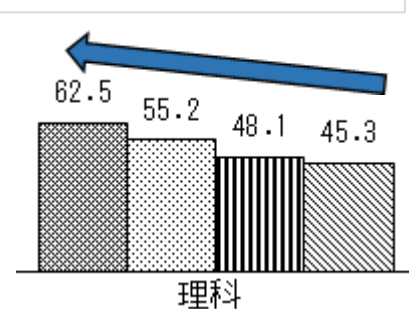
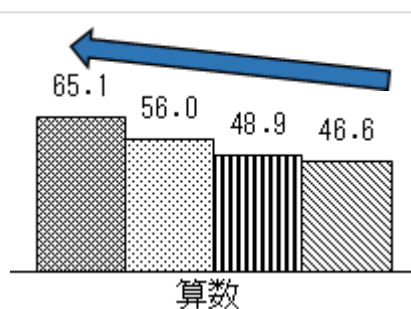
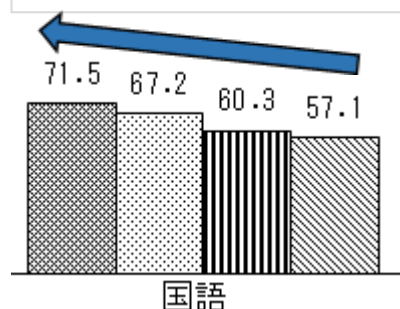
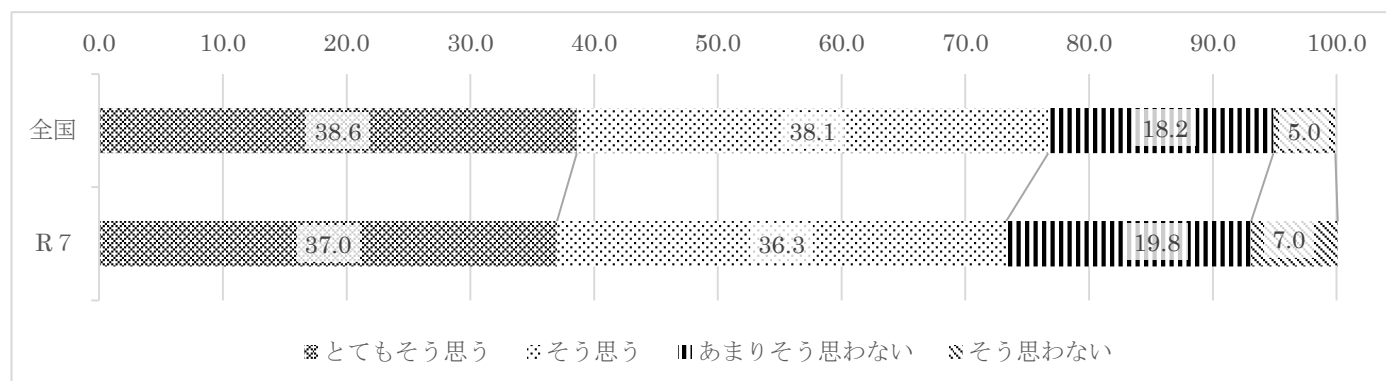
中学校



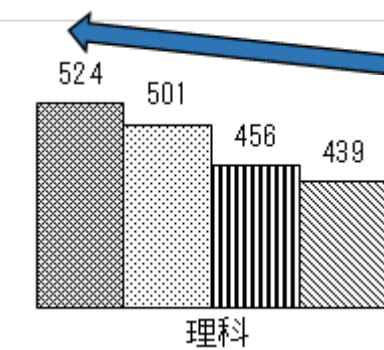
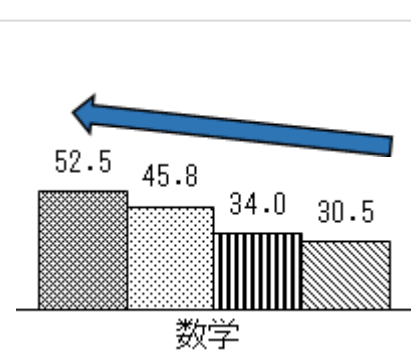
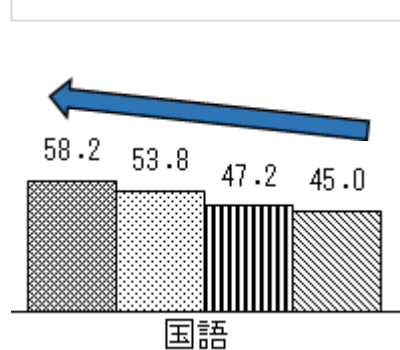
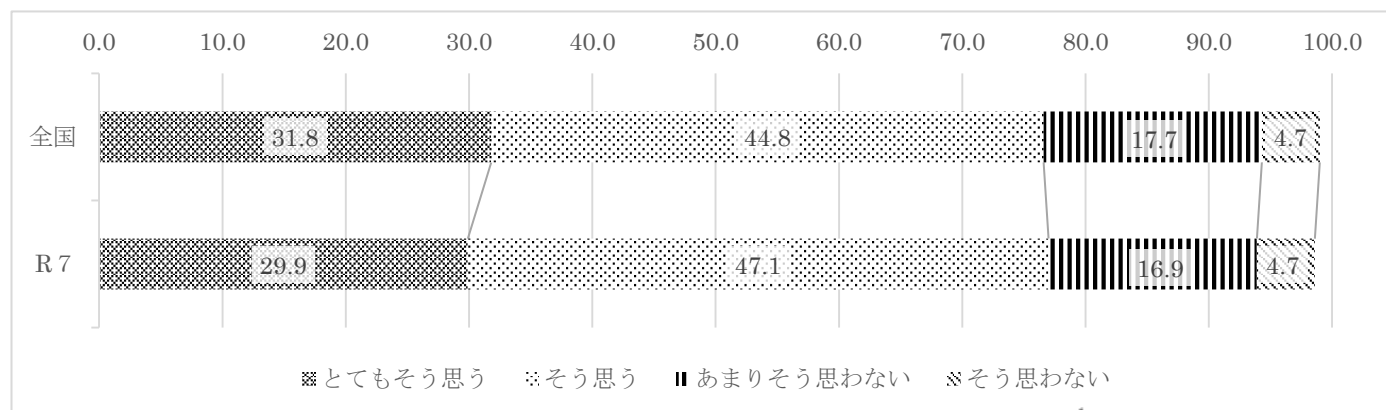
小学校は、肯定的回答割合が63.3%と、全国の69.3%を大きく下回っている。中学校は、肯定的回答割合が64.1%と、全国の63.3%を上回っている。小中学校ともに、PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思っている児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査(29-4)】 あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますと思いますか

小学校



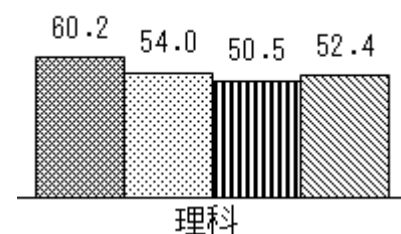
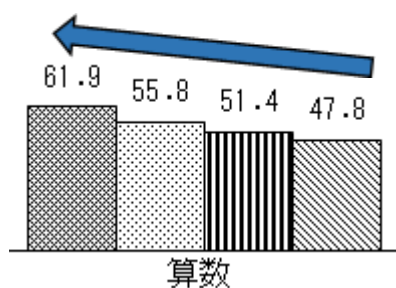
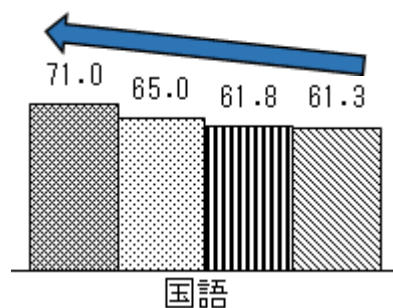
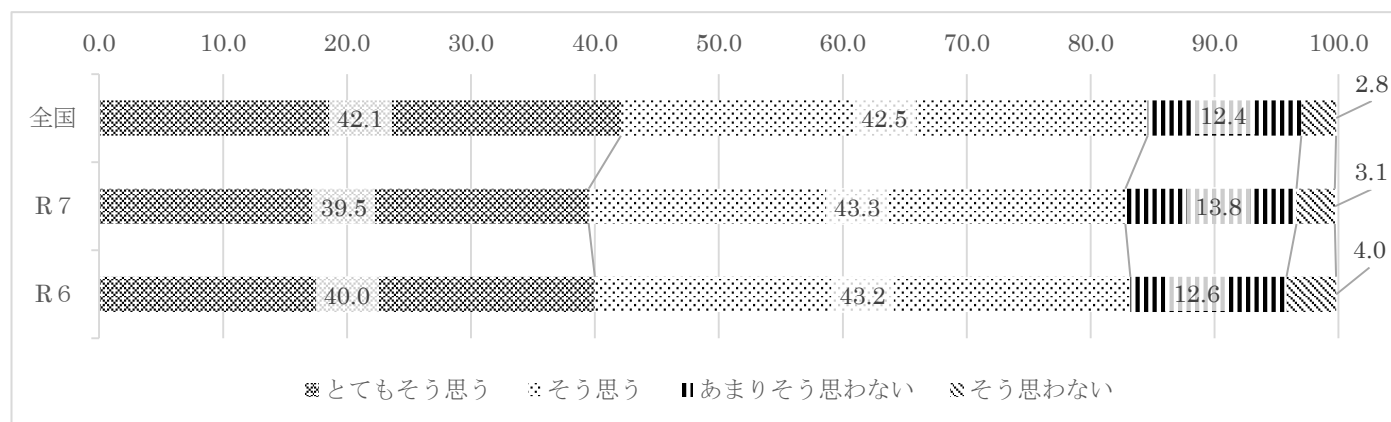
中学校



小学校は、肯定的回答割合が73.3%と、全国の76.7%を下回っている。中学校は、肯定的回答割合が77.0%と、全国の76.6%を上回っている。小中学校ともに、PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思っている児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童質問調査(30-6)】 5年生までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

小学校



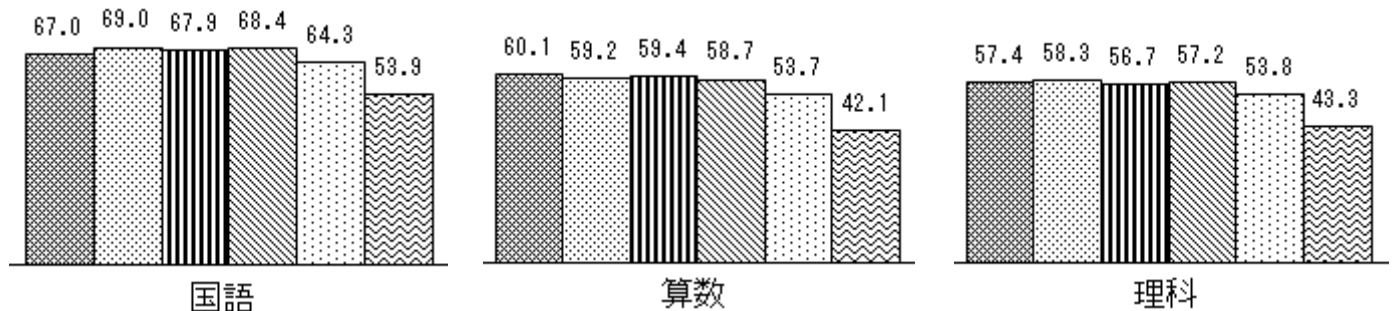
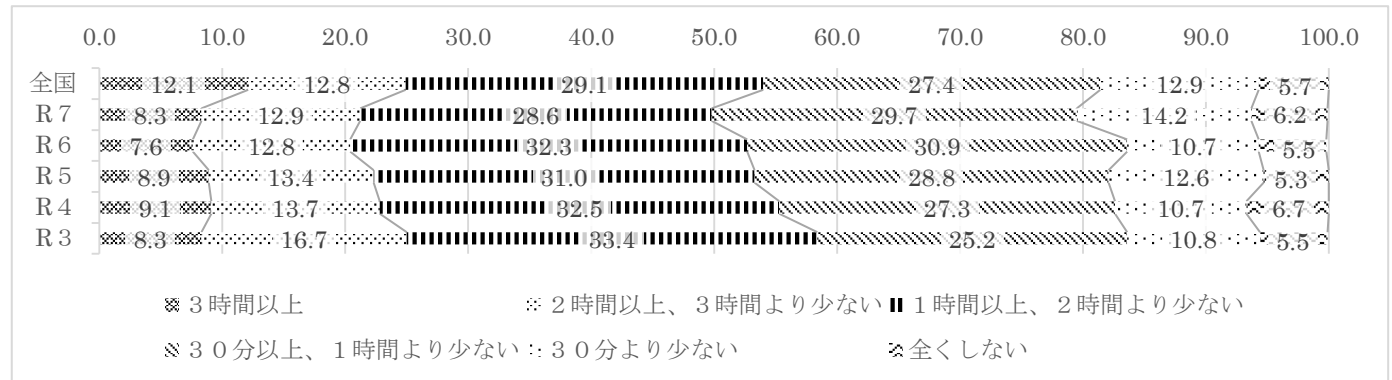
小学校は、肯定的回答割合が 82.8%と R6年度の 83.2%を下回り、全国の 84.6%も下回っている。小学校は ICT 機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思っている児童ほど、教科の正答率が概ね高い傾向にある。

※本質問項目の中学校のデータは、国からの情報提供がないため表示していません。

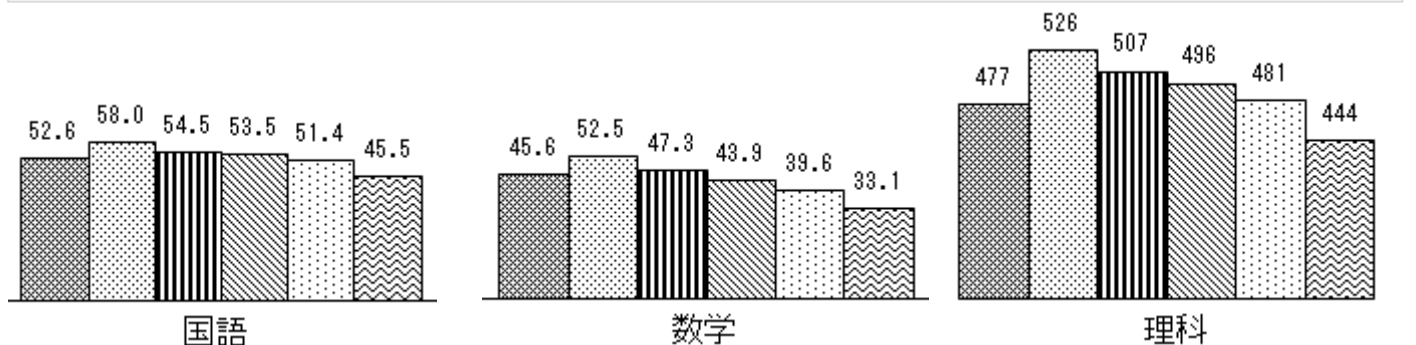
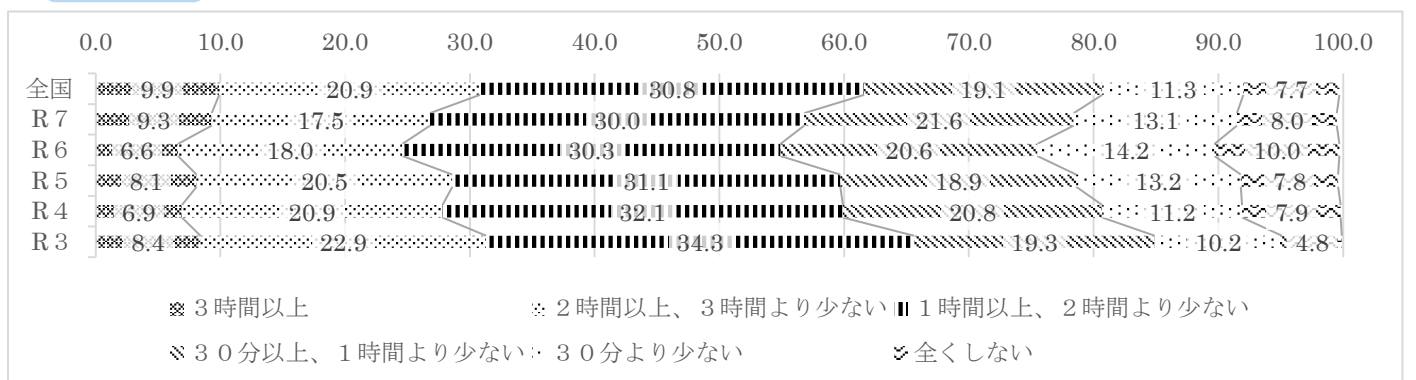
(3) 家庭学習に関する取組状況

【児童生徒質問調査】(17)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

小学校



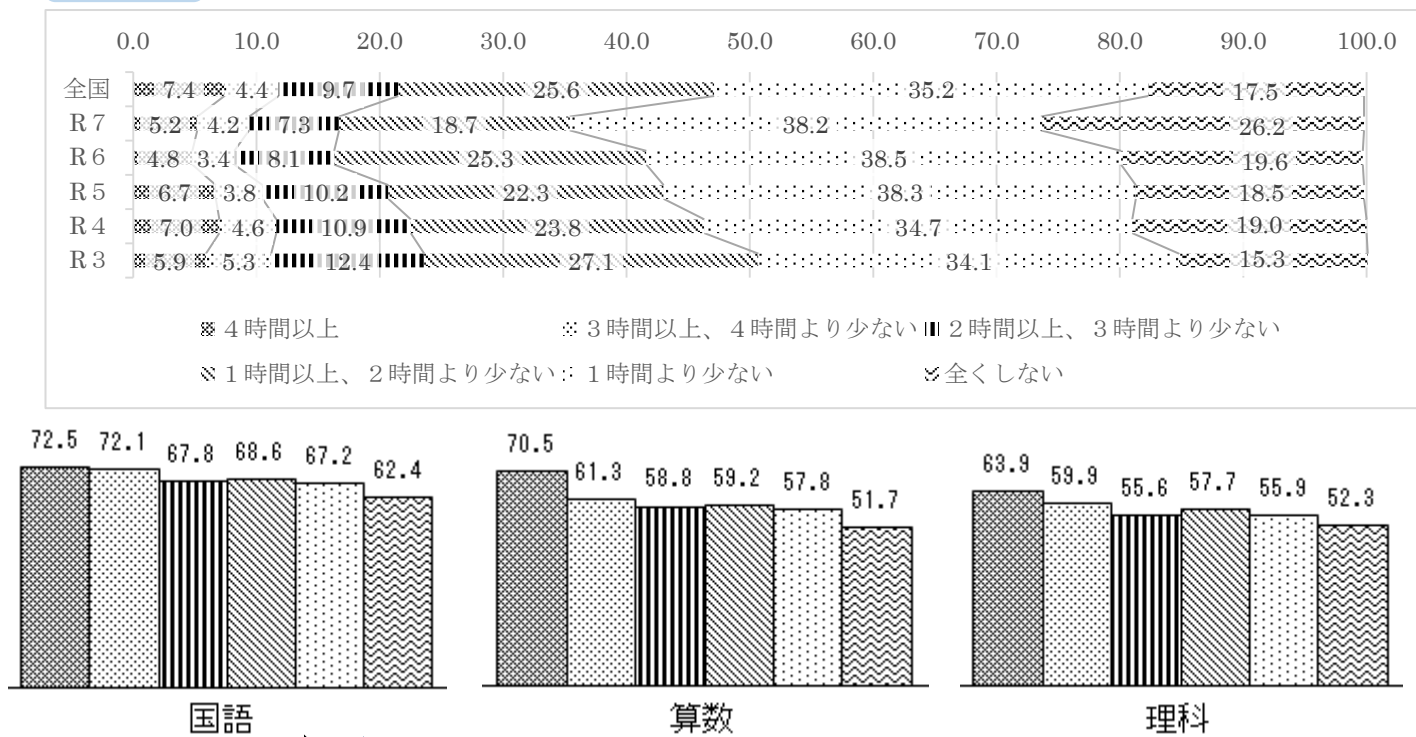
中学校



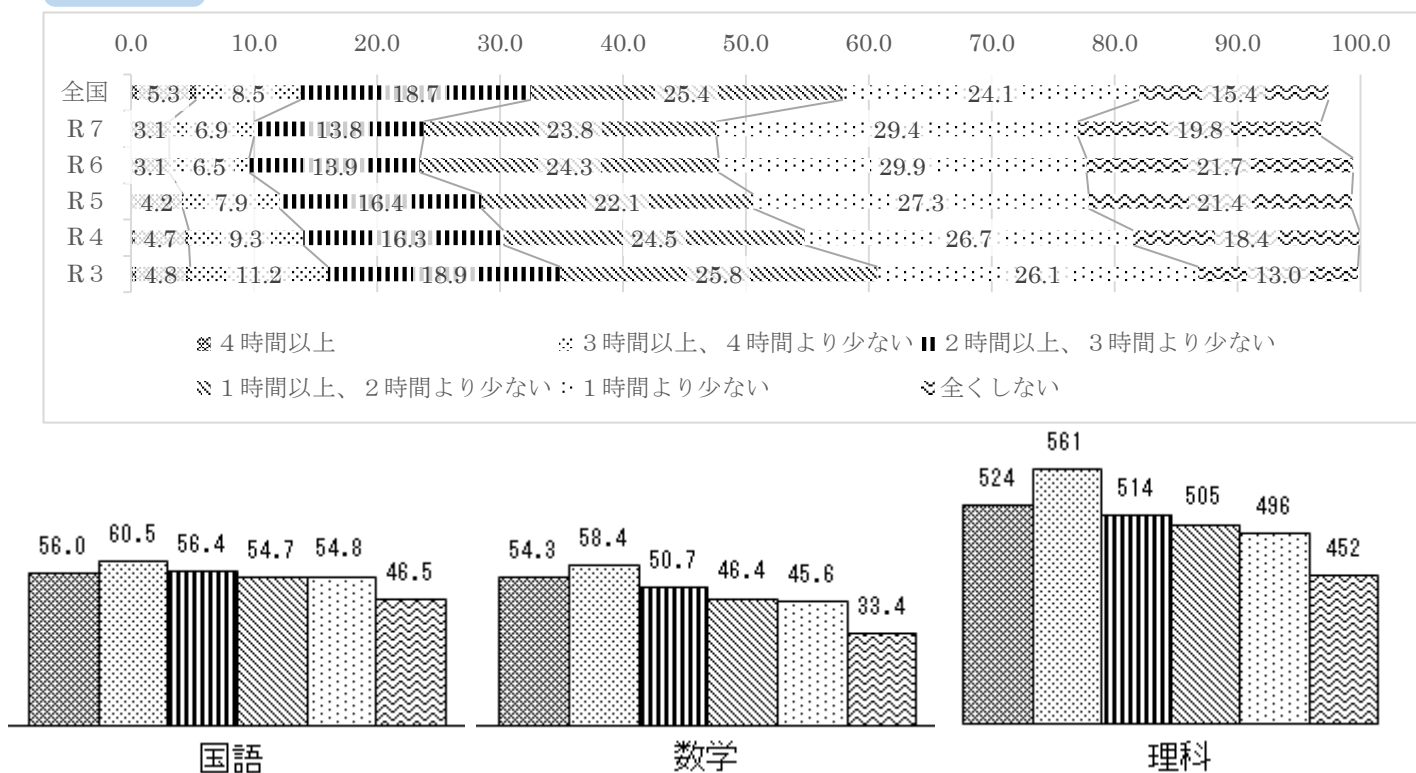
小学校は、「1時間以上」と回答した割合が49.8%とR6年度の52.7%を下回り、全国の54.0%も下回っている。中学校は、「1時間以上」と回答した割合が56.8%とR6年度の54.9%を上回っているが、全国の61.6%を下回っている。小学校は「1時間以上」と回答した割合が、R3年度以降において最も低くなっている。

【児童生徒質問調査】(19)土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

小学校



中学校

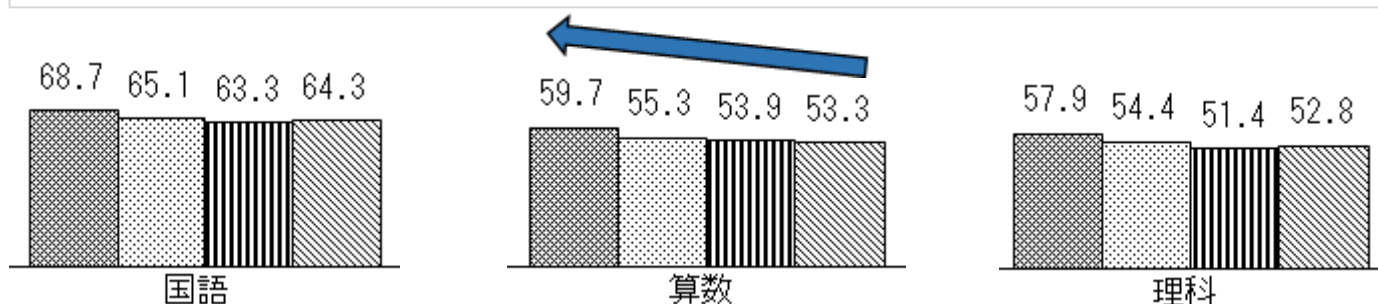
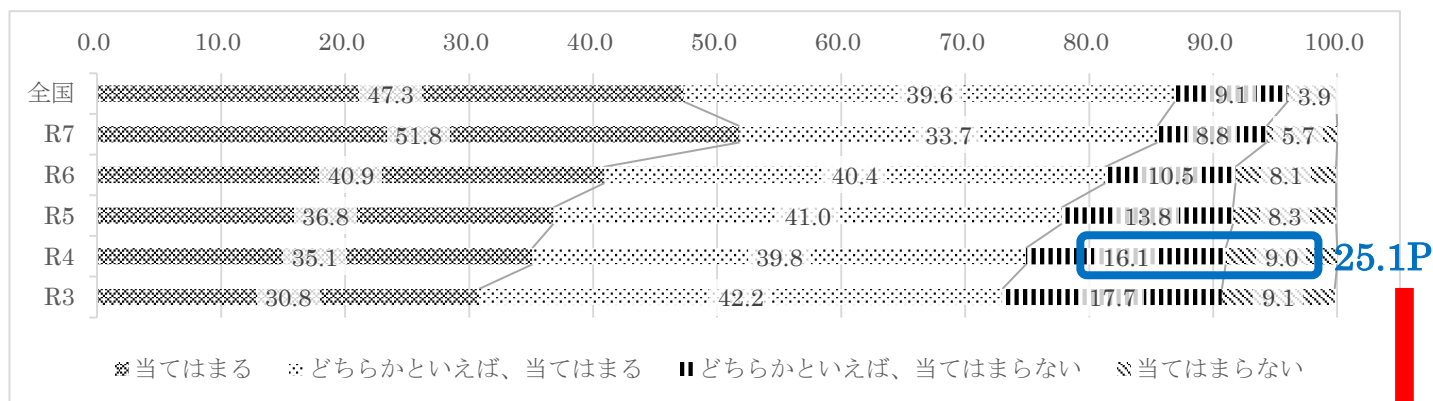


小学校は、「1時間以上」と回答した割合が35.4%とR6年度の41.6%を大きく下回り、全国の47.1%も大きく下回っている。中学校は、「1時間以上」と回答した割合が47.6%とR6年度の47.8%を下回り、全国の57.9%も大きく下回っている。小中学校ともに「1時間以上」と回答した割合が、R3年度以降において最も低くなっている。

(4)非認知能力等に関する状況

【児童生徒質問調査】(5)自分には、よいところがあると思いますか

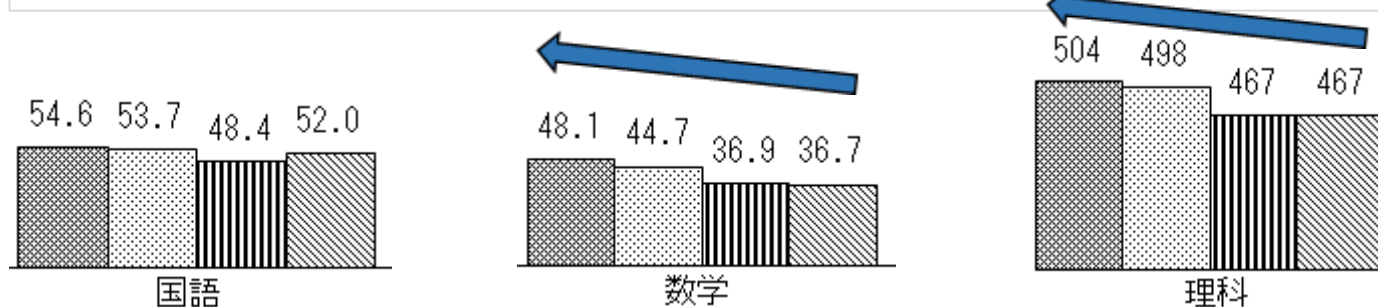
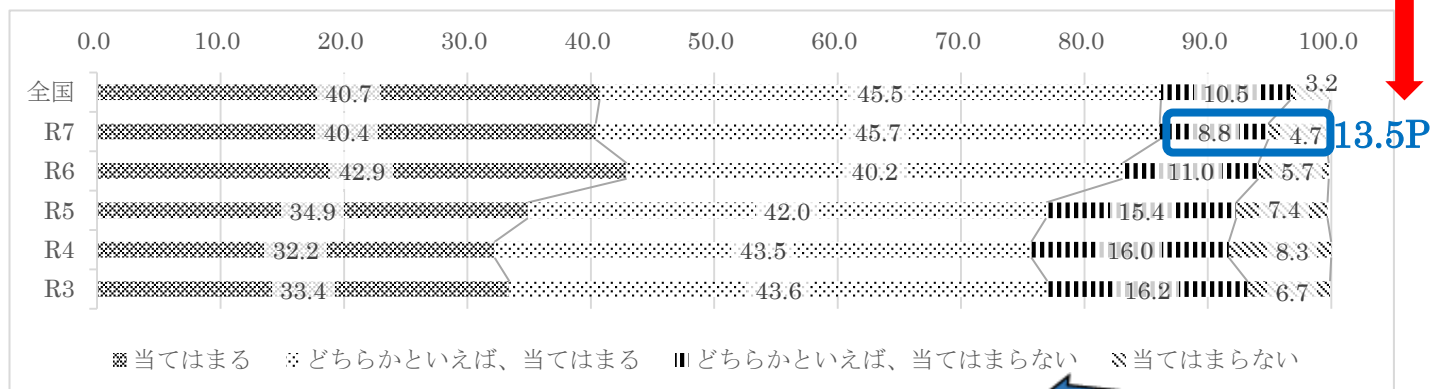
小学校



中学校



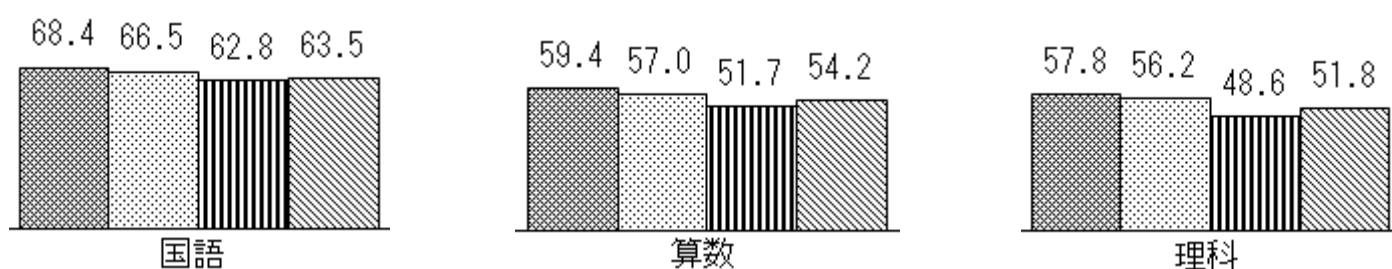
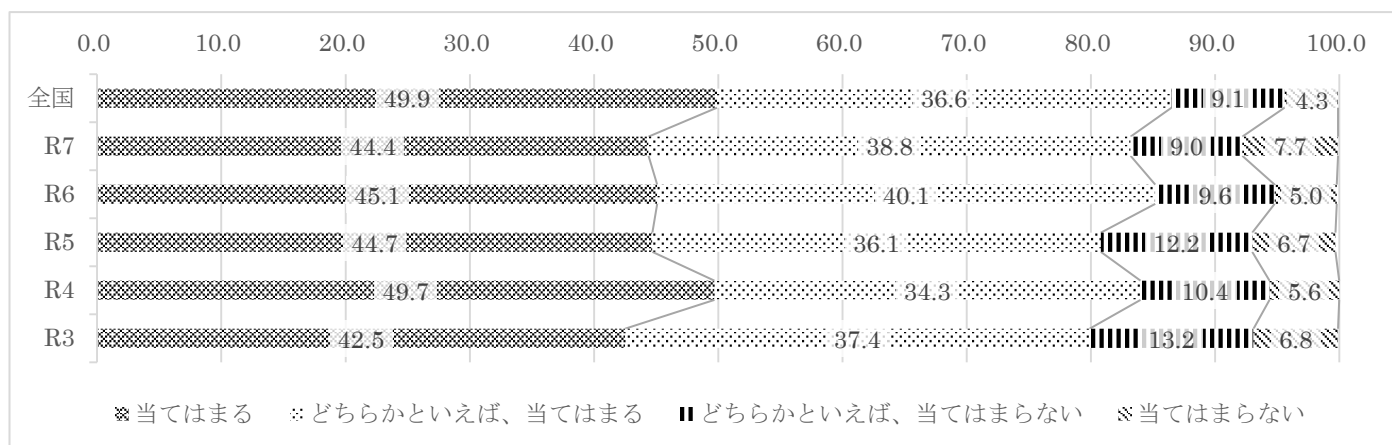
同一児童生徒の否定的回答割合 減少



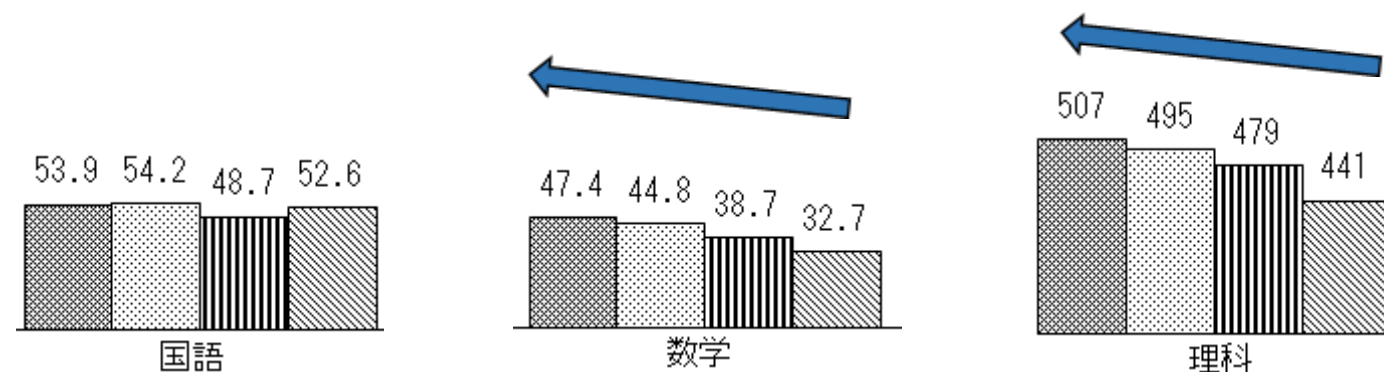
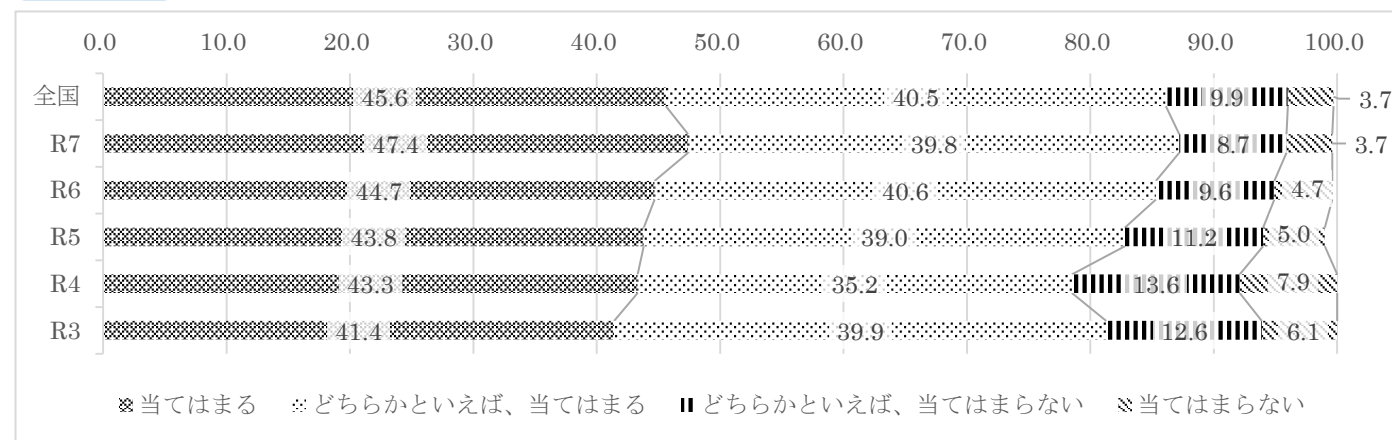
小学校は、肯定的回答割合が85.5%とR6年度の81.3%を上回っているが、全国の86.9%を下回っている。中学校は、肯定的回答割合が86.1%とR6年度の83.1%を上回っているが、全国の86.2%を下回っている。小中学校ともに、肯定的回答割合がR3年度以降において最も高くなっている。小中学校ともに、自分にはよいところがあると思っている児童生徒ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問調査】(12)学校に行くのは楽しいと思いますか

小学校



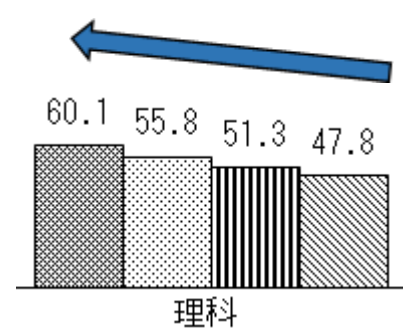
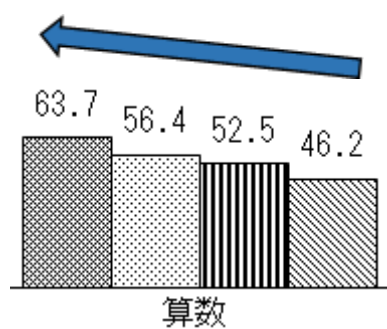
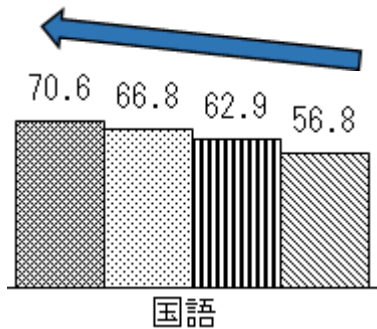
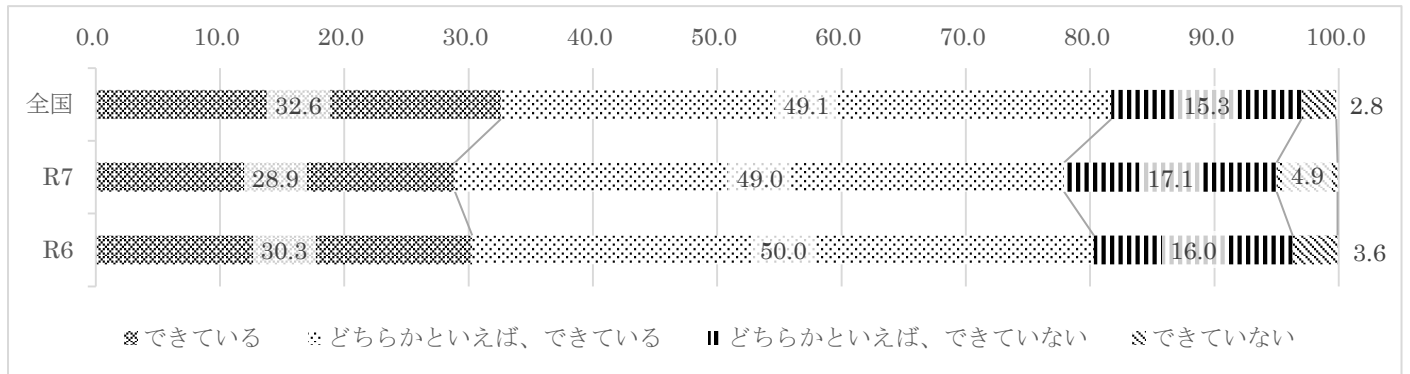
中学校



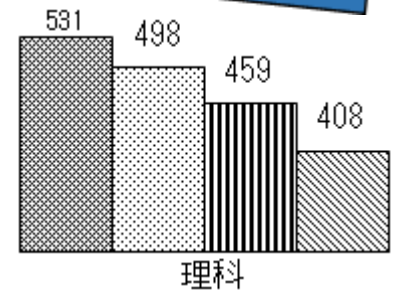
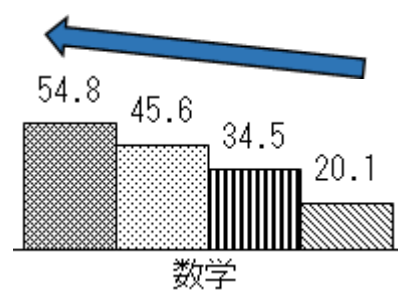
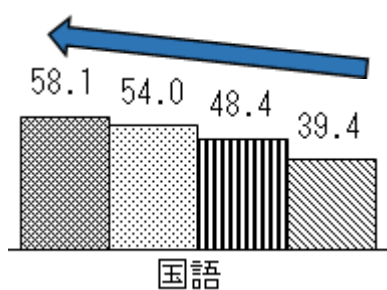
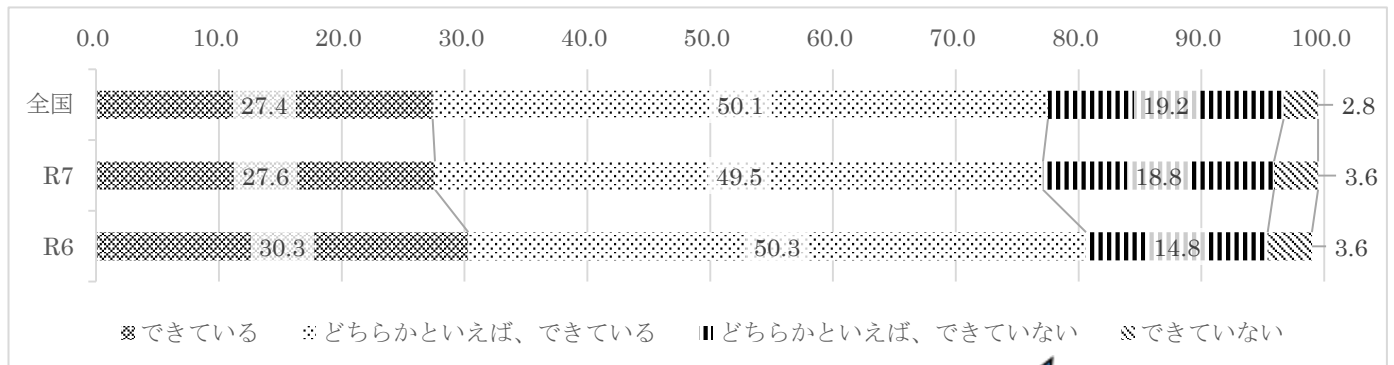
小学校は、肯定的回答割合が83.2%とR6年度の85.2%を下回り、全国の86.5%も下回っている。中学校は、肯定的回答割合が87.2%とR6年度の85.3%を上回り、全国の86.1%も上回っている。中学校は、肯定的回答割合が、R3年度以降において最も高くなっている。

【児童生徒質問調査】(16)分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

小学校



中学校



小学校は、肯定的回答割合が77.9%とR6年度の80.3%を下回り、全国の81.7%も下回っている。中学校は、肯定的回答割合が77.1%とR6年度の80.6%を下回り、全国の77.5%も下回っている。小中学校ともに、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。